

平成25年～29年度文部科学省

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の
担い手育成「学び舎」事業

05

最終報告書

平成29年度成果報告および
平成25年～29年度(5年間)のあゆみ

平成30年3月



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

平成25年～29年度「文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」
ウェルネス×協奏型地域社会の
担い手育成「学び舎」事業



**平成29年度
成果報告**

および

**平成25年～29年度
(5年間)のあゆみ**

平成30年3月

**ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
平成29年度成果報告および平成25年～29年度（5年間）のあゆみ**

《目次》

ごあいさつ	P 3
事業推進責任者 札幌市立大学 学長 蓮見 孝	

I. COC 事業評価

COC 事業評価部門	P 6
------------------	-----

II. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要	P10
COC 事業担当者 デザイン学部 教授 中原 宏	

学内組織体制図	P12
---------------	-----

施設平面図	P13
-------------	-----

III. 平成29年度活動報告

0. 活動履歴	P16
---------------	-----

1. 教育改革推進チーム	P20
--------------------	-----

2. 研究企画推進チーム	P22
--------------------	-----

3. 学び舎企画推進チーム	
---------------	--

3.1 < SCU まちの教室 > 班	P24
---------------------------	-----

3.2 < SCU まちの談話室 > 班	P26
----------------------------	-----

3.3 < SCU まちの先生 > 班	P28
---------------------------	-----

3.4 < SCU まちの健康応援室 > 班	P30
------------------------------	-----

4. 広報企画推進チーム	P32
--------------------	-----

5. COC 特任教員	P34
-------------------	-----

IV. 平成25年～29年度（5年間）の事業総括

1. 教育改革推進チーム	P38
--------------------	-----

2. 研究企画推進チーム	P42
--------------------	-----

3. 学び舎企画推進チーム	
---------------	--

3.1 < SCU まちの教室 > 班	P46
---------------------------	-----

3.2 < SCU まちの談話室 > 班	P50
----------------------------	-----

3.3 < SCU まちの先生 > 班	P54
---------------------------	-----

3.4 < SCU まちの健康応援室 > 班	P58
------------------------------	-----

4. 広報企画推進チーム	P62
--------------------	-----

5. COC 特任教員	P66
-------------------	-----

ごあいさつ

事業推進責任者
札幌市立大学 学長
蓮見 孝

公立大学法人札幌市立大学による大学COC事業(COC)の最終年度終了にあたり、事業推進責任者としてごあいさつを申し上げます。

本学SCUは、設置団体である札幌市との綿密な協議のもと、平成25年にCOC「地(知)の拠点整備事業」に申請し採択されました。事業名称は「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」。地方創生に必要な「地域の担い手の育成」と「地域住民とともに健康の維持・促進を図るウェルネス」の取り組みを、SCUの特長である「デザインと看護の連携(D×N)」をいかして推進しようとするものです。

5年間にわたり積極的に推進してきたCOCは、「大学を学外に開き地域創生の核となる大学づくり」という第二期経営戦略の柱を推進する上で極めて有効なエンジンとなり、諸活動を通して大学の存在意義が強く社会から再認識されるようになったと実感しています。そして本学の全教職員と学生が意欲的に参画し推進されてきたCOCは、終了後もその基盤が継続され、さまざまな活動が引き続き展開されていく予定です。

COCにおける最も重要な課題は、「教育の改革」であると強く認識し取り組んできました。本学の特長であるD×Nをいかしながら、1年次から4年次まで、地域志向のアクティブラーニングを取り入れたカリキュラムを整備することができました。地域志向に芽生えた多くの学生たちは、主体的学びのプラットフォームとして新設した科目「地域プロジェクト」(自由科目)を積極的に履修申請し、多様な地域活動をおこなうようになりました。

研究においては、高齢化が最も顕著な札幌市南区をフィールドとして、市との連携のもと、大規模な高齢者ニーズ調査を実施・分析し、そのデータ等を公表しました。また地域包括ケアやエリアマネジメントなど、これからの地域に有効な社会基盤の整備に資する教員の研究にCOCの資金をいかすことができました。

本学COCにおいて最も画期的な取り組みは、平成27年5月に開設した「COCキャンパス まちの学校」の運営といえます。それは大学を「教職員と学生のためのキャンパス」という限定された概念に留めることなく、社会を構成する多世代・多セクターの人々が集まり共に学び合う開かれた大学のあり方を模索しようとするものでした。廃校になった小学校の跡利用施設「まこまる」の一部をCOCキャンパスとして整備し、「まちの教室」、「まちの談話室」、「まちの先生」、「まちの健康応援室」という4つのプログラムを運営しました。

「まちの教室」では、全教職員が担当することを目標に多くの公開講座を開講するとともに、正規の授業の一部を公開(事前申込)でおこなうなど、市民に身近な大学のあるべき姿を試行しました。「まちの談話室」では、「まこまる」と連携しながら、札幌国際芸術祭企画である「大風呂敷プロジェクト」など多彩な事業やイベントを、学生の参画も誘導しながら企画実施しました。「まちの先生」では、学外講師の発掘と学外講師による運営体制の確立をめざす活動をおこないました。「まちの健康応援室」では、アウトリーチ活動(出前)にも力を注ぎながら、大学による地域の健康支援事業の定着を図りました。

本学COCは、日本学術振興会による平成28年度評価で「A」となり、学内の事業評価部門でも「概ね良好」との評価をいただいています。また冒頭にも述べた通り、COCキャンパスは、平成30年度から6年間の第三期中期計画においても、引き続き「まこまないキャンパス」として継続運営されることになりました。

次年度以降も、室蘭工業大学が代表校となり推進されているCOC+と連携しながら、COCで培った経験やノウハウをいかし、学生、教職員、地域のみなさんの期待に答えられる大学づくりのために、充実した活動を意欲的に展開していきます。長年にわたる多くのみなさんの多大なるお力添えに心から感謝申し上げます。

I.COC 事業評価

COC事業 評価部門 歴代委員

※役職は任期中最終のもの。

【学内委員】

- 中村 恵子 札幌市立大学 特別顧問・特任教授 [平成26～28年度 評価部門長] (平成26～28年度)
城間 祥之 札幌市立大学 デザイン研究科長・デザイン学部教授 [平成29年度 評価部門長] (平成26～29年度)
松浦 和代 札幌市立大学 看護学研究科長・看護学部教授 (平成29年度)

【学外委員】

- 細川 敏幸 北海道大学 高等教育推進機構 教授 (平成26～29年度)
瀬戸口 剛 北海道大学 大学院工学研究院 建築都市空間デザイン部門 空間計画分野
北極域研究センター 教授 (平成26～29年度)
遠藤 滋 北海道立総合研究機構 連携推進担当理事 (平成26～28年度)
高田 純 北海道立総合研究機構 連携推進担当理事 (平成29年度)
佐藤 正義 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議 (南区区民協議会)
前顧問 (平成26～29年度)
元木 朗 札幌市市長政策室 改革推進室長 (平成26～27年度)
山田 一八 札幌市総務局行政部 改革推進室長 (平成28～29年度)

本事業では、学外委員を含む評価部門を設け、毎年度、事業の推進状況の評価を行った。
最終年度に当たる平成29年度は、COC事業期間5か年分の評価を行った。

COC 部門長 (COC 事業担当者)
中原 宏 様

COC 評価部門長
城 間 祥 之

「地(知)の拠点整備事業(COC)」の評価結果について

平成29年11月13日に開催した「地(知)の拠点整備事業」評価部門会議において、本事業の実施結果(状況)を以下のとおり評価しましたので通知いたします。

記

1 評価結果

本事業は、全体として「概ね良好、ほぼ計画どおり実施している」と評価する。

2 意見

以下の意見を参考に、引き続き推進してください。

① 総評

毎年度、実施スケジュールを作成・視覚化(文書化)して関係する教職員間で情報を共有するとともに、それに基づいて事業をほぼ計画どおり実施したことは高く評価できる。補助金終了後においても多くの取組を継続することなどが、『量から質への転換期』を迎えていると考える。各取組の有効性や教職員の負担感のほか、今後は何が重要で何に力を入れる必要があるのかなど、今一度検証の上、『質の充実』を図っていただきたい。

② 組織体制

部局長等で構成し重要事項を協議する「推進会議」、事業内容のディレクション等を行う「幹事会」、各取組を企画・実施する4つのチームなど、大学組織全体でCOCを推進する体制が構築され、実質的に機能していることは高く評価できる。また、大多数の教職員が参加していることは特筆に値する。

③ 予算執行

経費を節約して執行したことは評価できるが、予算超過(赤字)を恐れるあまり、執行が委縮している面が見受けられる。計画的に、かつ、特に重要な取組には十分配分するなど、より有効な活用が望まれる。

④ 教育

申請時に掲げた目標を全て達成したことは高く評価できる。特に正規科目として平成28年度から「地域プロジェクト」、平成29年度から「学部連携基礎論」を開講したことは特筆に値する。人口減少及び長寿社会において、より質の高い生活や本当の豊かさとは何かを追求する学問、人材育成の場としての実践的な大学を目指していただきたい。

⑤ 研究

申請時に掲げた目標を達成できない見込みだが、目標が高過ぎたと思われる。また、補助金減額の影響は理解するが、研究数が漸減している。平成25年度に実施した札幌市南区の高齢者ニーズ調査に関するデータは、非常に貴重であり、市民に大きく還元できる可能性を秘めている。例えば、少子高齢化が顕著な南区の保健福祉部は同様の問題意識を持っていると思われるが、データ提供や分析の協力など、行政と一層連携・協働した取組を進めていただきたい。なお、このデータを有効に活用するためには、質の高いデータベースの構築が必要である。現時点では調査しただけに見える。このデータを今後どのように活用するのが見えない。

⑥ 地域貢献

公開講座や南区町内会イベントへの参加等を積極的に行ったことは高く評価できる。地域特性や地域課題が多様化する中、試行錯誤しながら取り組んだ活動に少しずつ成果が表れ、今後の可能性も認められる。「まちの健康応援室」は、COCキャンパスへの来室者が少なく、出張活動のニーズが高いことから、出張活動により力を入れた方がいいのではないかと。

⑦ 広報活動

幅広く行ってはいるが、効果的に浸透する情報発信が行われたかについては疑問が残る。ウェブサイトは、全国に発信する媒体としては有効だが、市民や企業等の理解・関心が得られるような、わかりやすく具体性のある工夫を要する。成果報告書においても、事業計画と実施結果の整合性について不明確な記述が多い。成果指標は、結果の数値だけでなく、なぜそのような結果に至ったのかなどを含め、市民にわかりやすく説明するような工夫を要する。

以上

II. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要

COC 事業担当者
デザイン学部 教授
中原 宏

本事業は、札幌市と連携し、廃校となった小学校の一部に地（知）の拠点「COCキャンパス」を新設し、ここを多世代・多セクターが学び合う「学び舎」として整備し、「地域志向」の教育・研究・社会貢献活動を推進するものである。札幌市、とくに南区では、少子高齢化が進み、コミュニティの再構築、地域の魅力ある顔づくり、高齢者のウェルネス支援が課題となっている。この課題解決に向けて、デザインと看護の専門性を有する本学が、ウェルネス支援や地域の活性化に貢献する人材を育成するなど、地域志向プロジェクトを地域住民と協働して展開する。あわせて、本学の学生が、真駒内COCキャンパスで地域の現状を体感し、課題を読み取り、解決策を提案する過程で、「専門性を実社会に活かす力」を獲得することを目指す。

事業期間全5カ年の主な事業の構成と、実績は以下のとおりである。

1. 教育：異分野連携教育の拡充と地域志向の強化によるカリキュラム改革

教育改革推進チームではこの5年間、地域志向を有する人材育成を、本学の教育カリキュラムに明確に位置付け、「異分野連携の深化」、「地域志向科目の増強」、「地域志向科目のシラバスへの反映」の3点を目的に活動を行ってきた。

①異分野連携の深化

開学時より実施してきた学部間連携科目である「スタートアップ演習」と「学部連携演習」の2つを核としてより深い連携教育を、地域を題材とした演習を行うことで実現させてきた。

②地域志向科目の増強

上述の演習を繋ぐ新設科目として、「学部連携基礎論」の設計を行うことで、両演習を段階的に深化させる仕組みを作り上げ、平成29年度より開講させた。また、これら3科目の学びを地域活動として実践するため、「地域プロジェクトⅠ（基礎編）」、「地域プロジェクトⅡ（応用編）」、「地域プロジェクトⅢ（発展編）」を整備し、地域志向科目の骨格となる科目群を完成に導くことができた。

③地域志向科目のシラバスへの反映

2年間に渡る教員の合意形成の過程を経て、本学が開設している科目の全てを対象とした調査を実施することで、申請時に掲げた目標を上回る地域志向科目を整備するに至った。

2. 研究：ウェルネス×協奏型地域社会の構築に寄与する研究の推進

本事業では、対象地域の課題解決に寄与する、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究を「COCリサーチ」として位置づけ、以下の取組を行った。

①ウェルネスサイエンス研究の推進

COCリサーチについては、全学教員を対象とする競争的研究資金（「地域志向」研究のための研究費補助制度）を平成25年度に「COC共同研究費」として創設し、積極的に支援することとした。平成26～29年度のCOCリサーチとしては計12件の研究を採択するとともに、研究を担当した教員は両学部合わせ延べ73名であった。また、年度ごとに研究成果報告書を発刊およびWeb上に掲載した。

②研究基盤の整備・研究関連調査

学内の教員が実施している「地域志向」の研究動向の実態調査を実施するとともに、学内における「地域志向」の研究の意識づけ強化を行った。

③高齢者ニーズ調査の実施とデータ有効活用の検討

札幌市南区在住の高齢者9,000名を対象とする「健康に関するニーズ調査」を平成25年度に実施するとともに、分析結果を基に南区住民を対象とした報告会を平成26年度に開催した。また、データの活用方策について検討するとともに、学内公開を行った。

3. 社会貢献：コミュニティの再構築等の地域課題の克服に寄与する社会貢献活動の展開

本事業では、対象地域の課題解決に寄与するウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした社会貢献活動を「COCまちの学校」として位置づけ、これをさらに①まちの教室②まちの談話室③まちの先生④まちの健康応援室の4事業に区分して全学的に展開している。

①まちの教室：地域住民向けの公開講座・セミナー事業
本学の専任教員全員が、積雪寒冷地の「まちづくり」や「ウェルネス」に関わるデザイン学・看護学の最先端の講義を地域住民に対して行い、地域貢献を図るものである。「SCUまちの教室」公開講座は、事業期間合計で229回（教員登壇者数：237人）を実施した。なお、デザイン学部・看護学部の全ての専任教員が企画立案・講座の講師として運営に関わることを目指した全学運営率は、事業期間累計で94.9%となり（デザイン学部：100%・看護学部：90.5%）、ほぼ目標を達成した。

②まちの談話室：多世代・多セクターの交流事業
地域の人々のウェルネス（健康で、楽しく、生きがいもてる状態）を創出する場を設定するとともに、各種事業やイベントを開催し、大学と地域との交流活動を活性化するものである。

上記目的を達成するため、以下の取組を展開した。

- ・多世代・多セクターによる協奏の場づくりの先進事例の調査
- ・地域防災に係る企画
- ・図書室・談話室の運営
- ・ぱくりっこ掲示板の運営
- ・地域住民が本学教育研究活動の理解を深めるための展示企画の実施
- ・地域住民の交流を促す企画の実施（まちの小さな音楽会、演劇、ボードゲーム等）
- ・コミュニティカフェ運営に関するアドバイスの実施と「お試しシェフ」の実施

③まちの先生：地域住民が主役となる生涯学習事業
専門知識・技能を有する地域住民が講師となって地域住民の生涯学習講座を担う事業であり、事業終了後は地域住民が自立して講座等を運営・活動できる仕組みと講座を通じたコミュニティを構築することを目指している。平成27～29年度は、市民と本学教員（まちの先生班メンバー）による「まちの先生」運営委員会を毎月開催するとともに、講師となる住民の企画募集と、「まちの先生」の夏季・秋季・冬季講座を計62講座開講した。

④まちの健康応援室：地域住民の気軽な健康相談の場所
看護学部を有する本学の専門性を活かした地域住民へのウェルネス支援事業の一環として、札幌市で最も高齢化が進む南区を中心に、地域住民の健康・生活に関する相談、助言を行う「まちの健康応援室」をCOCキャンパスの一室を専用スペースとして、平成27年9月に開設した。これは当初、COC事業計画には盛り込まれていなかったものである。本学看護学部教員と、保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの専門資格を

もつ有資格ボランティア（19名登録、13名活動中）の協働によって相談への対応体制をつくり、地域の方たちの相談や健康チェックに当たっている。また、ボランティアと教員によるミーティングを年2回開催し、協働で活動する意識を高めている。

開設以降、約1,000名の市民が来室するとともに、地域への出張活動も実施した。

4. 広報・記録活動

COC広報企画推進チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的としたチームである。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的としている。

具体的な活動としては以下の取組を行った。

- ①コミュニケーションメディア（事業概要紹介パンフレット、専用封筒、事業説明プレゼンテーション用スライド、横断幕、案内ポスター、リーフレット等）の作成
- ②ICTを活用した広報活動（COC広報Webサイトの構築・運用・改善）
- ③映像によるCOC事業記録
- ④COC催事イベントの企画・運営
- ⑤COCキャンパス内のサインデザイン
- ⑥各種成果報告用パネルの作成
- ⑦まちの学校新聞の発行（地域住民への活動周知）
- ⑧COC事業報告書の作成

5. COC事業推進のための仕組み

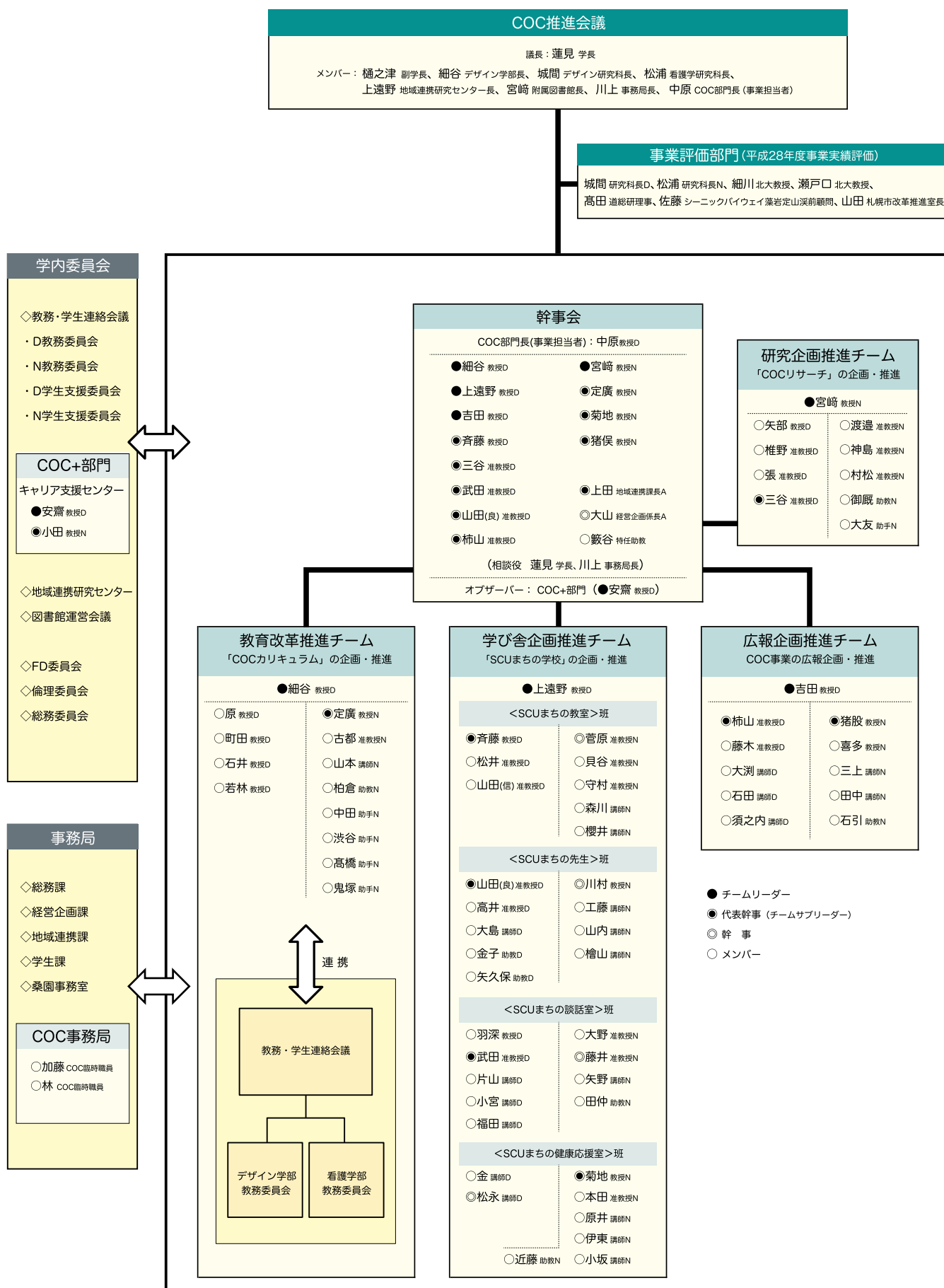
事業推進組織は本学の教職員が一体となって取り組む全学体制とした。とくに教育改革を担う教育改革推進チームについては、全学委員会である教務・学生連絡会議や、両学部の教務委員会メンバーと一致するよう人員配置を行った。また、COC特任教員1名（平成26、27年度は2名）と臨時職員2名（平成26、27年度は3名）の体制でCOC事務局を運営した。

COC評価部門（構成：学内委員2名、学外委員5名）を設置し、前年度のCOC事業に係る事業評価を実施し、次年度の改善を図った。

さらに、本事業を円滑に進めていくため、札幌市の関係部課長、地域住民と大学が協議、情報交換を行う「COC連絡会議」を設置し、定期的に意見交換を行うこととし、札幌市と地域住民、本学の連携・協力を維持・強化していく体制とした。

平成29年度 COC学内組織体制

全教職員の参加により推進



研究企画推進チーム

「COCリサーチ」の企画・推進

●宮崎 教授N

○矢部 教授D	○渡邊 准教授N
○椎野 准教授D	○神島 准教授N
○張 准教授D	○村松 准教授N
●三谷 准教授D	○御殿 助教N
	○大友 助手N

● チームリーダー
● 代表幹事 (チームサブリーダー)
○ 幹事
○ メンバー

広報企画推進チーム

COC事業の広報企画・推進

●吉田 教授D

●柿山 准教授D	●猪俣 教授N
○藤木 准教授D	○喜多 教授N
○大淵 講師D	○三上 講師N
○石田 講師D	○田中 講師N
○須之内 講師D	○石引 助教N

事務局

- ◇総務課
- ◇経営企画課
- ◇地域連携課
- ◇学生課
- ◇桑園事務室

COC事務局

- 加藤 coc臨時職員
- 林 coc臨時職員

連携

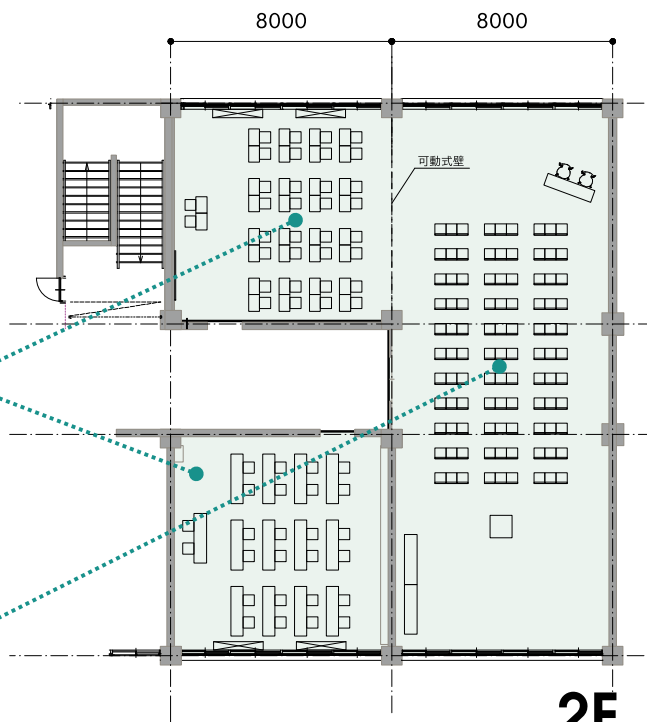
教務・学生連絡会議

デザイン学部 教務委員会

看護学部 教務委員会

※D:デザイン学部教員・N:看護学部教員・A:事務局職員

札幌市立大学COCキャンパス「まちの学校」
施設平面図



SCU A組・B組まちの教室
大学の公開講座や授業公開、まちの人が先生になるプロジェクト「まちの先生」の講座等、小学校の教室をそのまま活かした学びの場です。

SCUまちの講堂
フォーラムなど、大人数が集まるイベントを開催できる大きな部屋です。

2F

SCUまちの図書室・談話室
地域の人々と学生の交流の場。学生が場のデザイン・企画・運営を行い、誰もが気軽に立ち寄ることができる場を目指します。

SCUまちの健康応援室
地域の人々が気軽に健康相談に来ることができる場所。看護教員やボランティアスタッフに、悩みごとや健康に関する相談ができます。



SCUまちの職員室
COC事務局職員が常駐しています。

SCUまちのホームルーム
地域活動を行う学生のためのまちなか活動拠点。学生が作業や打ち合わせを行うことができ、ここを拠点に様々なプロジェクトを展開していきます。

1F

III. 平成 29 年度活動報告

0. 活動履歴

●4月

- 6日 スタートアップ演習(第1回)
 - 13日 スタートアップ演習(第2回)
 - 15日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル(説明会)」
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第1回)
 - 20日 スタートアップ演習(第3回)
 - 22日 学び舎・まちの先生班企画「観光ボランティアガイドって！」
 - 25日 学び舎・まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」
 - 27日 スタートアップ演習(第4回)
 - 30日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～レゴマインドストーム初級講習会～」
-

●5月

- 6日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第2回)
 - 11日 スタートアップ演習(第5回)
 - 18日 スタートアップ演習(第6回)
 - 20日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第3回)
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第2回)
 - 22日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第1回)
 - 23日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！(説明会)」
 - 25日 スタートアップ演習(第7回)
 - 28日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～レゴマインドストーム初級講習会2～」
 - 29日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第2回)
-

●6月

- 1日 スタートアップ演習(第8回)
学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第2回)
 - 3日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第4回)
 - 5日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第3回)
 - 6日 COC 共同研究審査会
 - 10日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第3回)
 - 12日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第4回)
 - 15日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第3回)
学び舎・まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」
スタートアップ演習(第9回)
 - 16日 COC 共同研究採択通知
 - 17日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第5回)
 - 18日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～レゴマインドストーム中級講習会～」
 - 19日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第5回)
 - 22日 スタートアップ演習(第10回)
 - 24日 学び舎・まちの談話室班企画「第4回まちの小さな音楽会～オカリナ・ラベンダーコンサート」
 - 29日 スタートアップ演習(第11回)
-

●7月

- 1日 学び舎・まちの教室公開講座「メカトロ教室『走れロボットカー』」
学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第6回)
- 6日 スタートアップ演習(第12回)
学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第4回)
- 8日 学び舎・まちの健康応援室班活動「常盤地区スマイルクラブ」
- 13日 スタートアップ演習(第13回)
- 15日 学び舎・まちの教室公開講座「昆虫のデザイン～樹液酒場の常連たち～」
学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第7回)
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第4回)
- 20日 スタートアップ演習(第14回) 活動報告会
学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第5回)
- 23日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり～競技大会(WRO2017)向け中級講習会～」
- 24日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第6回)
- 27日 スタートアップ演習(第15回)
- 28日 学び舎・まちの健康応援室班活動「もりの仲間のさわやかクラブ」

●8月

- 1日 学び舎・まちの先生班企画「まこまない盆踊を「おおう」大風呂敷をつくろう！説明会」
- 1～12日 学び舎・まち談話室班企画「真駒内大風呂敷工場 大風呂敷づくり」
- 2日 学び舎・まちの先生班企画「！歯みがきが楽しくなるワクワク教室！」
- 4日 学び舎・まちの教室公開講座／まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」(第1回)
- 5日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第8回)
- 5～6日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～競技大会(WRO2017)向け上級講習会～」
- 9日 学び舎・まちの先生班企画「指で描くパステル和(なごみ)アート はじめて講座」(夏季第1回)
- 10～12日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～競技大会(WRO2017)試走会およびWRO2017札幌大会」
- 16日 学び舎・まちの先生班企画「指で描くパステル和(なごみ)アート はじめて講座」(夏季第2回)
- 19日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第9回)
- 26日 学び舎・まちの談話室班企画「第5回まちの小さな音楽会～ギター・サマーコンサート」
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第5回)
- 27日 学び舎・まちの談話室班企画「まこまる劇場」

●9月

- 2日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第10回)
- 8日 学び舎・まちの教室公開講座「ナースが推奨する自然療法の活用『アロマセラピー』」
- 9日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第6回)
- 14日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第6回)
- 16日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル(収穫祭)」(第11回)
- 20日 広報・まちの学校新聞 第6号発行
- 21日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第7回)
- 27日 学び舎・まちの健康応援室班活動「みんなでみに区る健康まつり2017」

●10月

- 1日 学び舎・まちの教室公開講座「マイコンレーサー講習会～初級編～」
- 3日 学部連携演習(ガイダンス)
- 5日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう！」(第8回)
学び舎・まちの教室公開講座／まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」(第2回)

- 10日 学部連携演習(第2回)
- 14日 「きて!みて!まこまる2017」スタートアップ演習パネル展示・COC共同研究パネル展示
 学び舎・まちの教室公開講座「健康情報学 -健康・医療の情報を賢く判断し選ぶために-」
 学び舎・まちの教室公開講座「こどもの描くスケッチから『まちの未来』を考える」
 学び舎・まちの談話室班企画「ボードゲームの世界に触れてみよう!」
 学生企画「あそびワークショップ/まちのロボットこうじょう」(卒業研究)
 学び舎・まちの談話室班企画「第6回まちの小さな音楽会〜オカリナ・コスモスコンサート」
 学び舎・まちの先生班企画「活動パネル展示」
 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」
- 17日 学部連携演習(第3回) フィールドワーク
- 19日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう!」(第9回)
 学び舎・まちの健康応援室班活動「石山地区生き生き健康教室」
- 21日 地域プロジェクト中間報告会
 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第7回)
 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第12回)
- 24日 学部連携演習(第4回)
- 25日 学び舎・まちの健康応援室班活動「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」
- 29日 学び舎・まちの教室公開講座「マイコンレーサー講習会〜初級編2〜」
- 31日 学部連携演習(第5回)

●11月

- 2日 学び舎・まちの先生班企画「日本の民謡を唄って楽しもう!」(第10回)
- 5日 学び舎・まちの教室公開講座「マイコンレーサー2講習会〜中級編〜」
- 7日 学部連携演習(第6回) フィールドワーク
- 12日 学び舎・まちの教室公開講座「マイコンレーサー講習会〜上級編〜」
- 14日 学部連携演習(第7回)
- 17日 学び舎・まちの先生班企画「指で描くパステル和(なごみ)アート はじめて講座」(秋季第1回)
- 18日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第8回)
 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第13回)
- 19日 学び舎・まちの教室公開講座「マイコンレーサー北海道大会」
- 20日 学び舎・まちの健康応援室班活動「健康なまち定山溪『まちけん』」
 学び舎・まちの教室公開講座「メンタルヘルス講話とストレスチェック」
- 21日 学び舎・まちの先生班企画「指で描くパステル和(なごみ)アート はじめて講座」(秋季第2回)
- 25日 学び舎・まちの先生班企画「カーリンコンをやってみよう!」(第1回)
 学び舎・まちの先生班企画「松浦武四郎の軌跡と地図」
- 28日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第1回)

●12月

- 5日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第2回)
- 8日 学び舎・まちの教室公開講座/まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」(第3回)
- 9日 学び舎・まちの先生班企画「カーリンコンをやってみよう!」(第2回)
- 12日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第3回)
- 16日 学び舎・まちの談話室班企画「第7回まちの小さな音楽会〜オカリナ・クリスマスコンサート」
 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第9回)
- 19日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第4回)
 学部連携演習(第8回)
- 22日 学び舎・まちの教室公開講座「話を聴いてもらっていますか・話せていますか
 -患者として主体的に治療に参加するために-

●1月

- 6日 学び舎・まちの教室公開講座「冬のメカトロ講座『ロボットカーを走らせよう』」
- 9日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第5回)
学部連携演習(第9回)
- 10日 学び舎・まちの先生班企画「おいしく食べて!楽しく歯みがき!」
広報・まちの学校新聞 第7号発行
- 16日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第6回)
学部連携演習(第10回)発表会
- 20日 学び舎・まちの先生班企画「ポタジェサークル」(第14回)
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第10回)
- 23日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第7回)
学び舎・まちの教室公開講座「話し合い上手になるために～地域の集まりを楽しむコツ～」
- 27日 学び舎・まちの先生班企画「カーリンコンをやってみよう!」(第3回)

●2月

- 6日 学び舎・まちの教室公開講座「牧場の歴史ものがたり」
- 10日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第11回)
- 13日 学び舎・まちの教室公開講座/まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」(第4回)
- 16日 学び舎・まちの教室公開講座「地域住民のこころを掴むコミュニティレストランの運営」
- 17日 COC事業最終成果報告会「札幌市立大学「まちの学校」のこれまでとこれから
-地域志向型教育・研究拠点および交流の場を目指して-」
- 18日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～初級編～タッチセンサーロボ編」
学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～初級編～四足歩行ロボ編」
- 23日 学び舎・まちの教室公開講座「アートの中のゲーム、ゲームの中のアート」
- 24日 学び舎・まちの先生班企画「カーリンコンをやってみよう!」(第4回)
地域プロジェクト最終報告会

●3月

- 2日 学び舎・まちの先生班企画「指で描くパステル和(なごみ)アート講座」
学び舎・まちの教室公開講座「パリの街とデザイン(その2)」
- 9日 学び舎・まちの教室公開講座「Norwegian Life/ノルウェーの風景そして暮らしとデザイン」
学び舎・まちの教室公開講座「昭和のデザイン」
- 17日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第12回)
学び舎・まちの教室公開講座「動物園をデザインする～円山動物園×札幌市立大学の12年間の歩みとこれから～」
- 18日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会～レゴ・マインドストーム初級編～」
- 20日 広報・まちの学校新聞 第8号発行
- 24日 学び舎・まちの先生班企画「カーリンコンをやってみよう!」(第5回)

教育＝教育改革推進チーム・研究＝研究企画推進チーム
学び舎＝学び舎企画推進チーム・広報＝広報企画推進チーム

1. 教育改革推進チーム

チームリーダー：細谷 多聞

代表幹事：定廣 和香子

メンバー：【デザイン学部】石井雅博・原 俊彦・町田 佳世子・若林 尚樹

【看護学部】古都 昌子・山本 真由美・柏倉 大作・鬼塚 美玲

渋谷 友紀・高橋 葉子・中田 亜由美

I 平成29年度の事業概要・目的

教育改革推進チームでは、本年度は「学部連携基礎論」、および、地域プロジェクトⅠ（基礎）Ⅱ（応用）Ⅲ（発展）への展開を教育カリキュラムとして確立させることを目標に取り組んだ。COC最終年度に、これらの科目を確立することで、本学の地域志向科目群を完成させることが目的である。結果として、昨年度に検討した授業計画を元にそれぞれの科目を無事開講することができたとともに、本学に在学中の学生が、必須科目で段階的な地域志向学習を進める教育カリキュラムと、学生がこれらの学びから主体的な地域志向学習を希望に応じて受講可能なカリキュラムを完成させることができた。

II 平成29年度の役割

地域志向を有する人材の育成を、本学の教育カリキュラムに明確に位置付けるとともに、必要な増強科目を新たに設置することが本チームの役割である。COC最終年度を迎えるにあたり、平成28年度に教育内容を具体的に計画した、新規科目を確実に開講させることが必要であった。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

- (1) 2年次開講の必須科目として設定した「学部連携基礎論」を開講するとともに、従来科目である「学部連携演習」との接続を図る。
- (2) 平成28年度に自由科目として開講した「地域プロジェクト」を「地域プロジェクトⅠ（基礎）」「地域プロジェクトⅡ（応用）」「地域プロジェクトⅢ（発展）」に展開するとともに、従来科目（地域プロジェクト）の受講学生が円滑に「地域プロジェクトⅡ（応用）」の受講ができるように誘導する。

2. 主な活動

【スタートアップ演習】

1) 実施内容

平成26年度から始まったCOC教育改革プログラム試行の最終段階として「D×N（デザインと看護）の連携」をテーマとしたプロジェクト活動を通じ、大学や地域という新しい舞台・環境に一日も早く慣れることをねらいとし、5回目に3コースに分かれ、南区各地に学生・教員チームを派遣し、「D×N連携」「地域に親しむ」エクスカージョンを実施した。また、その体験をもとに「D×N連携」を活かしたプロジェクト活動を企画・実施し、その成果を、B棟アトリウムでのポスターセッション・展示、最終報告会でのプレゼンテーション、大学祭で一般向けに展示を通じ発表した。実施者：履修者171名：デザイン学部87名、看護学部84名、演習担当教員：デザイン学部10名（うち共通教育3名、COC特任1名）、看護学部10名。

2) 授業内容の検証と評価

成績分布、展示・報告会の教員評価、担当教員アンケート、学生の授業評価アンケート、COC教育改革推進チームで作成し、最終日に実施した学生の自己達成度評価を元に効果検証を行った。その結果、地域との連携については、エクスカージョンやプロジェクトを通じての間接的体験に過ぎないが、地域に親しむという点では、全体評価と同様、各項目とも「できた+まあできた」が概ね80%～90%との回答を得た。その一方、平成27年度からエクスカージョンとプロジェクトを直接、結び付けなくても良いとしたこともあり、「発見に基づいてプロジェクトのテーマを明確に実施する」という項目の評価がやや低下した。また集団活動への参加が困難な学生も徐々に増える傾向にあり、これらの知見を踏まえ、これまでの活動の集大成として平成29年度に向けた改善案をまとめた。

【学部連携基礎論】

1) 実施内容

学部連携基礎論は、2年次開講の必須科目として

前期に開講した。本科目は、3年次開講科目「学部連携演習」の基礎となる講義・演習を展開することを目的として計画したものである。前半では、地域調査手法や本学教員による研究実践の事例、札幌市南区地域振興課に講師を依頼し、南区の特徴について講義を行っていただくなど、従来の学部連携演習で不足がちであった教示を充実させた。また、後半では受講学生を南区10地域にグループ分けし、担当地域のアセスメントや特徴の抽出、を経て、課題の抽出に取り組む演習を行った。学習成果の発表は平成29年8月2日に桑園キャンパスで行い、受講学生、科目担当教員の他、両学部教員の任意参加で実施した。

2) 授業内容の検証と評価

両学部の2年次学生は時間割の制約が大きいことから、最終発表会を除く授業を芸術の森キャンパスと桑園キャンパスの校地をまたいで実施せざるを得ない事情がある。前半の講義については、遠隔講義システムを活用して実施したが、理想とした教育成果が得られる環境を整えることができなかった。次年度開講時は、各キャンパスに講義を行う教員を配置し、直接的な講義が叶うよう、授業計画を変える必要がある。また、受講学生からは校地をまたいだ演習が連携にそぐわないといった意見(授業評価アンケート)も得ていることから、演習プロセスを共有しやすい学習環境を拡充しなければならないことがわかった。ただし、学習成果は評価できるものであり、従来、3年次に行ってきた学部連携演習の前半部分の目標(地域調査や課題発見)は確実に達成されていた。

【学部連携演習】

平成28年度の実施方法を踏襲し、札幌市南区の10地区を対象とした演習授業を行なった。それぞれの地区は、デザイン学部と看護学部の学生18～20名、および両学部の教員が1名ずつ担当し、「デザインと看護の連携」および「地域課題の発見と提案」を目指すプロジェクト学習を行なった。演習期間中には2回の現地調査を行い、最終回の授業では、地域の方々を招いて芸術の森キャンパスのアリーナで公開発表会を実施した。

【地域プロジェクトⅠ(基礎)Ⅱ(応用)Ⅲ(発展)】

平成28年度に正規科目として開設した地域プロジェクトを学生が学習深度にあわせて、継続的に受講できるように平成29年度から、「地域プロジェク

トⅠ(基礎編)」「地域プロジェクトⅡ(応用編)」「地域プロジェクトⅢ(発展編)」の3科目構成とした。また、この際、平成28年度に「地域プロジェクト」を受講した学生は継続的に履修できるように配慮した。さらに、平成29年度入学学生には、入学当初から複数回の科目説明会、オリエンテーションを企画し、学科目「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の魅力を説明した。その結果、平成28年度の履修生17名のうち、10名が地域プロジェクトⅡを履修した。また、平成29年度入学生のうちデザイン学部32名、看護学部6名が地域プロジェクトⅠを履修し、平成28年度入学生のうち、さらに17名が地域プロジェクトⅡを履修した。授業内で運営するプロジェクト数も平成28年度は、10プロジェクトであったが、平成29年度は26プロジェクトとなり、多くの学生が複数のプロジェクトを選択し、積極的に参加している。中間報告会、最終報告会を企画し、学習成果を形成的に評価する機会を設けるとともに、プロジェクトⅠ・Ⅱの合同授業としたため、学年を超えた学習成果の共有も可能となった。将来的には、学年を超えた学生同士による継続的なプロジェクトの計画、実施、評価の実現が期待でき、地域貢献に必要な実践的能力の獲得に向けて、効果的な授業科目となりつつある。提供するプロジェクトが、デザイン学部教員によるものが多いため、看護学部の履修者が少ない点が課題である。しかし、地域で生活する人々の理解、デザインを通したヘルスプロモーションの可能性など看護学的な実践力に不可欠な内容が学習できる科目となっているため、今後は、これらの特徴や魅力の伝達を通して、看護学部学生の履修者の増加をめざしたい。

3. 評価

COC事業の最終年度は、異分野連携科目の深化を、学部連携基礎論の開講と、地域プロジェクトⅠ(基礎)Ⅱ(応用)Ⅲ(発展)の開講で実現させることができた。また、地域志向科目のシラバスへの反映は、既に目標値を達成できている。これらのことから、教育改革推進チームで掲げたCOC事業の目標はすべて達成できたと考える。

2. 研究企画推進チーム

チームリーダー：宮崎 みち子

代表幹事：三谷 篤史

メンバー：【デザイン学部】矢部 和夫・椎野 亜紀夫・張 浦華

【看護学部】神島 滋子・村松 真澄・渡邊 由加利・御厩 美登里・大友 舞

I 平成29年度の事業概要・目的

地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COCリサーチ」の企画・推進を図る。

II 平成29年度の役割

1. ウェルネスの研究推進：地域課題の解決に寄与する研究「COCリサーチ」の採択を行ない、「地域志向」の研究推進を図る。
2. 研究基盤の整備・研究関連調査：南区民への調査を基盤としたウェルネス研究を推進する。
3. 高齢者ニーズ調査結果の更なる有効活用を検討する。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

- 1) ウェルネス研究推進
- 2) 高齢者ニーズ調査のデータ活用
- 3) 研究基盤の整備・研究関連調査：学内教員が実施している「地域志向」の研究動向の実態調査

2. 主な活動

1) ウェルネス研究推進

「COCリサーチ共同研究」学内公募を実施した（公募期間：平成29年4月7日～5月12日）。本年度は、COC事業対象地域におけるウェルネスに関連し、本学の教育に反映が期待できるものとし、「COC事業の成果検証に関する研究」、「COCキャンパスの効果検証に関する研究」、「南区の賑わい創出に関する研究」、「南区住民のウェルネス支援に関する研究」をテーマに募集した。

その結果、1件の応募があり採択された。その研究課題は「「まちの健康応援室」有資格ボランティアとの協働による健康支援活動の検証ー「まちの健康応援室」継続利用の効果判定ー」（研究代表者：菊地ひろみ、共同研究者：本田光・原井美佳・伊東健太郎・小坂美千代・松永康佑・金秀敬・近藤圭子）である。

2) 高齢者ニーズ調査のデータ活用

平成25-26年度に実施した「南区にお住まいの65歳以上の方の健康に関するニーズ調査」結果において、高齢者が口腔の清潔に関心の少ない点が明らかとなった。そこで、口腔の清潔に関するリーフレット「1日1回！お口の中を見ましょう」（図1）を作成した。これをまちの健康応援室や南区の健康まつりなどで配布し、口腔の清潔に関する啓蒙を図った。

3) 研究基盤の整備・研究関連調査：学内教員が実施している「地域志向」の研究動向の実態調査

COC事業に留まらず学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容の把握により、今後の活動の参考にする目的で、質問紙調査を平成29年11月に実施した。調査対象は、本学教員（除、休職および特別休暇中の教員）でデザイン学部35名、看護学部41名、計76名である。なお、本調査の詳細は本事業の「総括報告」（42～44ページ）に掲載する。

3. 評価

- 1) ウェルネス研究推進として、「COCリサーチ共同研究」学内公募を実施した結果、応募は1件であった。本年度はCOC事業の最終年度であり、時間的制約から追加公募には至らなかった。
- 2) 高齢者ニーズ調査のデータ活用では、口腔の清潔に関するリーフレットを作成・配布した。これにより、高齢者が日常的に口腔の清潔に関心を持つ機会と、具体的なセルフケアの機会を提供できたことは評価できる。
- 3) 研究基盤の整備・研究関連調査：学内教員が実施している「地域志向」の研究動向の実態調査は、今年度も実施した。継続した本調査は、学内における「地域志向」の研究の意識づけ強化に貢献したと評価する。

1日1回！お口の中を見ましょう



- ◆ 高齢者の皆様のお口の中は、加齢に伴う歯牙欠損や歯周病、義歯の使用、唾液の分泌低下などで、自浄作用が低下します。定期的な健診やお口のセルフケアによって清潔にすることが大切です。
- ◆ 1日1回丁寧な歯みがきをしましょう。歯科で自分の口の状態に合わせた歯のみがき法を習いましょう。
- ◆ 食後は、口の中に食べかすが残らないようにうがいをしましょう。
 - ・ぶくぶくうがいは、大きな汚れと粘膜の汚れを落とします。
 - ・クチュクチュうがいは、歯と歯の間の汚れを落とします。
 - ・がらがらうがいは、のどについたばい菌を落とします。
- ◆ 義歯をお使いの方は、食後に必ずはずして義歯ブラシでみがき、よく水洗いしましょう。

札幌市の事業

- 歯周疾患検診事業があります。対象者に受診券が送られてきます。費用は500円です。
- 対象は職場等で実施する歯科健診を受けない、市内に居住する満40歳・50歳・60歳・70歳の方（健診当日の満年齢）、平成27年10月30日から開始されています。
- ただし、歯科医院でも独自の健診をしていますのでご確認ください。

「地(知)の拠点事業(札幌市立大学COC事業)2017」研究企画推進チーム作成:村松・御厩・三谷・矢部・椎野・張・渡邊・神島・大友・宮崎

図1 口腔の清潔に関するリーフレット「1日1回！お口の中を見ましょう」



「きて！みて！まこまる2017」における研究成果展示



「学内研究交流会2017」におけるCOCリサーチ共同研究の研究成果展示

3.1 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの教室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：齊藤 雅也

幹事：菅原 美樹

メンバー：【デザイン学部】松井 美穂・山田 信博

【看護学部】貝谷 敏子・守村 洋・櫻井 繭子・森川 由紀

I 平成29年度の事業概要・目的

「まちの教室」班の目的は、デザイン学部・看護学部の専任教員による市民向け「SCUまちの教室」を企画・運営し、地域貢献を図ることである。

II 平成29年度の役割

1. 「SCUまちの教室（公開講座・授業公開）」の企画・運営

「SCUまちの教室」は、公開講座・授業公開で構成されている。公開講座は、デザイン学部・看護学部の専任教員による単発、連続のいずれかで公開する。授業公開は、デザイン研究科の正規授業の一部を公開する。

2. ウェルネスに関係する企業・団体との交流事業の企画・運営

本学のデザイン・看護分野の特色を活かした研究成果を公表し、産学官金の連携強化を図ることを目的として「SCU産学官金研究交流会」を地域連携研究センターの主体で実施する。また、ウェルネスに関係する企業・団体との連携によって、教室班企画による市民向け公開講座を実施する。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

(1)「SCUまちの教室」は、前期と後期の始めに全教員に対して企画を募集し、実施する。授業公開は、大学院デザイン研究科教授会で募集し、実施する。本学デザイン学部・看護学部の専任教員全員が、その企画立案や講座の講師として運営に関わることを目指す（全学運営率＝事業期間中の累積運営教員数／在籍教員数：100%）。

(2)「SCU産学官金研究交流会」を地域連携研究センターの主体で実施する。また、ウェルネスやまちづくりに関連する企業・団体と連携して、教室班

企画による市民向けの公開講座を実施する。

2. 主な活動

(1)「SCUまちの教室」は、公開講座を計17企画（34回）、授業公開を計2企画（13回）実施した。

(2)「SCU産学官金研究交流会」を地域連携研究センターの主体で平成29年11月30日に実施した。まちの教室班が企画して、本学の開学以来、デザイン・ウェルネスに関わる共同研究を進めている札幌市円山動物園と連携した公開講座を平成30年3月17日に実施する。



写真1 昆虫のデザイン～樹液酒場の常連たち～



写真2 ナースが推奨する自然療法の活用「アロマセラピー」

3. 評価

(1)「SCUまちの教室（公開講座）」の講座参加者アンケートより、「特に役に立った」「役に立った」の回答が概ね高く、参加者のニーズを満たしていることが確認できた。また、「SCUまちの教室」の全学運営率（＝事業期間中の累積運営教員数／在籍教員数）は90%以上となり、目標の100%にほぼ近い実績が得られた。



写真3 こどもの描くスケッチから「まちの未来」を考える

(2) ウェルネスやまちづくりに関連する企業・団体と連携して実施した、「SCU産学官金研究交流会」は120人の参加者があり、今後の地域・産学官（金融）の連携を推進する基盤をつくることができた。



写真6 冬のメカトロ講座「ロボットカーを走らせよう」



写真4 話を聞いてもらっていますか・話せていますか



写真7 牧場の歴史ものがたり



写真5 冬のメカトロ講座「ロボットカーを走らせよう」



写真8 話し合い上手になるために～地域の集まりを楽しむコツ～

3.2 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの談話室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：武田 亘明

幹事：藤井 瑞恵

メンバー：【デザイン学部】羽深 久夫・片山 めぐみ・小宮 加容子・福田 大年

【看護学部】大野 夏代・矢野 祐美子・田仲 里江

I 平成29年度の事業概要・目的

地域市民のウェルネス(健康で、楽しく、生きがいがある状態)を創出する場を設定し、各種事業やイベントを開催することを通して市民交流活動を活性化することを目的とする。

II 平成29年度の役割

本事業最終年度は、これまでの活動のまとめを行う。次年度以降本学が地域市民の活動活性化に中心的役割を担うためにはどのような場の創出と事業・イベントの開催が有効であるかを明らかにし、今後の活動の在り方を検討する。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

事業の目的を達成するために、次の取組みを行った。

- (1) 図書室・談話室の運営
- (2) ぱくりっこ掲示板の運営
- (3) 地域市民や本学教育研究活動の理解を深めるための展示企画の実施
- (4) 地域市民の交流を促す企画の実施
- (5) コミュニティカフェ運営に関するアドバイスの実施

2. 主な活動

1) 図書室・談話室の運営

配架済みの図書の貸し出しおよび市民情報コーナーでのイベントなどの掲示を行った。通常の利用者は、1日平均10名程度で多くはなかったが、本施設でのイベント開催日は多数の利用があった。

2) ぱくりっこ掲示板の運営

これまでどおり継続して受付を行い交換情報の掲示を行った。年度や季節の変わり目は、比較的多く情報が寄せられ交換が行われた。

3) 地域市民や本学教育研究活動の理解を深めるための展示企画の実施

卒業研究に関連した子ども向けワークショップ「まちのロボットこうじょう」をまちのホームルームで行った。参加者は、市民71名(女性26名、男性8名、子ども37名)。学生スタッフ3名+教員2名=総合計76名であった。参加した子どもたちは真剣に取り組み、お互いに刺激し合いながらそれぞれ工夫し、有効な情報を得ることができたと共に、本学での教育について市民に知らせることができた。

4) 地域市民の交流を促す企画の実施

①第4回まちの小さな音楽会オカリナ・ラベンダーコンサート

6月24日13:00～14:00に開催した。参加者は、市民63名(大人61名+子供2名)+スタッフ10名+演奏者2名=75名であった。演奏者の工夫で、演奏に合わせて会場の皆が手振りや合唱をするなどの参加する場面をつくった。会場が一つになる演出は、全員が楽しく過ごすことができ大変好評であった。

②真駒内大風呂敷プロジェクト おおう

昨年度に続き今年度も開催した。本プロジェクトは、上町公園で実施される「まこまない盆踊」のやぐらをおおう大風呂敷を地域住民が共同でつくりあげるものである。大風呂敷の制作場所「大風呂敷工場」をCOCキャンパスまちのホームルームに開設し、ミシンを介したコミュニケーションの場として機能されることで、新たなコミュニティの創出と、まちの学校の賑わいづくりにつながる。今年度は、9日間で延べ63名が参加した。町内会や商店街、市民活動支援を行うことができた。

③第5回まちの小さな音楽会ギター・サマーコンサート



写真1 やぐらをおおう大風呂敷

8月26日13:00～14:00に開催した。参加者は、市民136名(大人123名+子ども13名)、スタッフ7名、演奏者7人。合計150人で会場はいっぱいになった。札幌市民芸術大賞受賞者で11弦ギター奏者渋谷環さんとアンドレス・セゴビア国際ギターコンクール室内楽部門優勝の渋谷環室内ギターアンサンブルの皆さんが演奏した。ギターの奏でる素晴らしい世界に引き込まれ、豊かで楽しい時間を過ごすことができた。ギターの説明や曲目の解説もし、最後は参加者全員でギター伴奏での合唱を楽しんだ。

広報にあたり、札幌南郵便局内の掲示板や窓にポスター掲示をしていただいた。今後も本学と連携して展示企画をするなどして地域活動を支援していく体制をつくることとなった。

④第1回まこまる劇場

8月27日14:00～15:00に本学演劇部デンコラと学外協力者により開催した。参加は、市民41名(大人25人+子ども16人)+出演者11名+演劇スタッフ1名+教員1名=54名。短編作品は、個性があり、テンポが速く飽きのこない楽しいものでした、大人には面白かったけれども、子どもには難しいかも、大学祭が楽しみなどの声があった。笑い声もあり、楽しい時間となったなどの感想が寄せられた。

⑤第6回まちの小さな音楽会オカリナ・コスモスコンサート

10月14日13:00～14:00に開催した。参加は、市民109名(男性33名、女性67名、子ども9名)、学内関係者5名+スタッフ教員4名+出演者3名=121名であった。複数回参加の市民も増え、音楽会参加を目的に訪れる市民が多く、音楽会開催が市民に定着してきた。オカリナの演奏や箏とのコラボレーションが素晴らしく、曲や楽器についての解説が楽しくまたは是非参加したいとの声が多かった。また、演奏での参加や音楽会運営のお手伝いをしたいとの声も聞かれた。

⑥ボードゲームの会

10月14日10:00～15:30に開催した。参加者は市民14名(女性9名+男性5名)であり、ロボット工場(子ども15名+学生3名)と同教室だったので、教室全体がとても賑わっていた。

低年齢の子どもに対応したゲームが少なかったため、親子で1プレイヤーとして参加したり、ロボット工場に兄弟の下の子が参加し、ゲームは上の子が参加していた。友だち2人で参加したが途中からそれぞれ学生スタッフや一般参加者と一緒に楽しんだり、低学年児童が1人で大人のグループに参加していた。ゲーム時



写真2 第6回オカリナ・コスモスコンサートの様子

間が長くても飽きる様子もなく、母親もその様子に驚いていた。一人で参加した高齢者は学生や一般参加者に混ざってゲームを楽しんでいた。ゲームの時やゲームを選んでいる時も、参加者の年齢や興味などをお互いに話しながら決める様子が見られた。

⑦第7回まちの小さな音楽会オカリナ・クリスマスコンサート

12月16日13:00～14:00に開催した。参加者は、市民98名(女性77名、男性16名、子ども5名)+スタッフ3人=101名であった。オカリナ、ピアノ、箏の演奏と市民オカリナサークル16名が演奏した。本音楽会に参加してオカリナサークル「赤とんぼ」でオカリナを習い始めた市民も演奏した。これからも音楽会の継続を希望する声が多数あり、企画運営に参加したいとの声が寄せられた。

5) コミュニティカフェ運営に関するアドバイスの実施

カフェまこまるは、昨年度まで運営していたNPOが撤退し、市民有志グループによる飲食提供を不定期に行っている。この体制でのカフェ運営に関して特に相談はなく、運営を見守った。

3. 評価

図書室・談話室は、地域市民の交流の場として知られ活用されるようになってきている。ばかりっこ掲示板は、地域市民に少しずつ知られるようになってきた。

地域町内会や商店街などと協働で取り組む体制ができ、大学が地域市民の交流を促進する役割を担うことができた。地域の音楽家やサークル活動をしている市民との協働により開催してきた音楽会は、毎回参加する市民が100名を超え、地域市民にとって楽しみな行事の一つとなった。本学学生および卒業生によるボードゲームの会は多数の子供たちが楽しむものとして市民に知られるものとなった。また、学生研究の検証のためのワークショップは、本学の教育研究について市民に知らせる役割を担うことに繋がっている。

3.3 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの先生〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：山田 良

幹事：川村 三希子

メンバー：【デザイン学部】高井 真希子・大島 卓・金子 晋也・矢久保 空遥

【看護学部】工藤 京子・檜山 明子・山内 まゆみ

I 平成29年度の事業概要・目的

地域住民が講師となり講座等を行う「まちの先生」事業を「COCキャンパス まちの学校」で実施する。また、最終年度にあたり、地域住民が自立して講座等を運営・活動できる仕組みと講座を通じたコミュニティを構築する。

II 平成29年度の役割

平成29年度の役割は、COC事業終了後も地域住民が主体となって「まちの先生」を継続するため、まちの先生運営委員会において開催情報の周知とオブザーバーの呼びかけなどを通じて、今まで以上に市民が参加しやすいものにした。さらに、地域住民が主体となって活動するために、自主的に運営する仕組みを構築したり従来の講座をサークル活動へと展開したりした。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

- (1) 市民が提案する講座を市民が自主的に運営し、積極的に広げ実施するためのサポート。
- (2) 「まちの先生」講座の募集と実施。
- (3) 地域住民が主体となって活動するための枠組みづくり。

2. 主な活動

1) 「まちの先生」運営委員会の運営及び企画サポート

まちの先生班担当教員1名、COC特任教員1名、市民構成員1名の計3名で、月に1回程度計8回（平成30年1月19日現在）、『まちの先生運営委員会』を開催した。委員会では「まちの先生」の企画者やオブザーバーの参加もあり、市民に開かれた会議の場とした。

2) 平成29年度「まちの先生」の開講

今年度は12件の企画申請があり、連続講座・サークル活動を含め今年度中に全39回の実施が予定されている（平成30年1月19日現在）。今年度から、パステル



写真1 パステルアート講座

アートの講座（写真1）などが新規で開講され、多くの参加者を集めた。

○「まちの先生」講座

- ・観光ボランティアガイドって！

日時：平成29年4月22日

講師：渡邊昇氏 参加人数：21名

- ・まこまない盆踊を「おおう」大風呂敷をつくろう

日時：平成29年8月1日

講師：小林元氏 参加人数：7名

- ・！歯みがきが楽しくなるワクワク教室！（写真2）

日時：平成29年8月2日

講師：津金澤秀樹氏 参加人数：15名

- ・指で描くパステル和（なごみ）アートはじめて講座（夏季第1回）

日時：平成29年8月9日



写真2 歯みがきが楽しくなるワクワク教室



写真3 松浦武四郎の軌跡と地図

- 講師：竹村 真奈美 氏 参加人数：20名
- ・指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座(夏季第2回)
日時：平成29年8月16日
- 講師：竹村 真奈美 氏 参加人数：18名
- ・指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座(秋季第1回)
日時：平成29年11月17日
- 講師：竹村 真奈美 氏 参加人数：12名
- ・指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座(秋季第2回)
日時：平成29年11月21日
- 講師：竹村 真奈美 氏 参加人数：13名
- ・松浦武四郎の軌跡と地図(写真3)
日時：平成29年11月25日
- 講師：打田 元輝 氏 参加人数：39名
- ・カーリンコンをやってみよう(第1回/全5回)(写真4)
日時：平成29年11月25日
- 講師：佐賀 信義 氏 参加人数：21名
- ・おいしく食べて！楽しく歯みがき！
日時：平成30年1月10日
- 講師：津金澤 秀樹 氏 参加人数：22名

3) 平成29年度「まちの先生」サークル活動説明会 今年度は4～5月に、通年で行われるサークル活



写真4 カーリンコンをやってみよう



写真5 菜園(ポタジェ)サークル



写真6 民謡サークル「日本の民謡を唄って楽しもう」

動(ポタジェサークル・民謡サークル)の説明会を実施し、ポタジェサークル全14回、民謡サークル全10回が実施された。(平成30年1月31日現在)

○「まちの先生」サークル活動

- ・菜園(ポタジェ)サークル(写真5)
開催日時：平成29年4/15、5/6、5/20、6/3、6/17、7/1、7/15、8/5、8/19、9/2、9/16、10/21、11/18、平成30年1/20
講師：藤井 純子 氏
- ・民謡サークル「日本の民謡を唄って楽しもう」(写真6)
開催日時：平成29年5/23、6/1、6/15、7/6、7/20、9/14、9/21、10/5、10/19、11/2
講師：佐藤 裕子 氏

3. 評価

事業計画の項目を実施し、本年度の目的は達成したと言える。COC事業終了後を見据えた企画運営の枠組みの整理や他団体との連携、サークル活動による自主的なコミュニティの形成が達成された。運営委員会の開催については、運営委員だけでなく企画者や多数のオブザーバーの参加もあり開かれた議論の場となった。以上の様に、本年度はまちづくりの核となる人材の発掘だけでなく、人材の育成と知の拠点としてのコミュニティの形成に対しても成果が得られた。

3.4 学び舎推進チーム〈まちの健康応援室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：菊地 ひろみ

幹事：松永 康佑

メンバー：【デザイン学部】金 秀敬

【看護学部】本田 光・伊東 健太郎・小坂 美智代・原井 美佳・近藤 圭子

I 平成29年度の事業概要・目的

「まちの健康応援室」班は、教員と有資格ボランティアとが協働してCOCキャンパスを拠点にして活動しており、看護学部をもつ本学の特徴を活かした事業である。

II 平成29年度の役割

「まちの健康応援室」の周知のために、まちづくりセンターや老人福祉センターにおいてチラシを配布してもらい、新規利用者の来所もあった。また従事する有資格者の技術に応じて、「栄養相談の日」や「こころの相談日」を新たに設けた。さらに今年度は、健康応援室の効果判定に関する研究を実施した。

III 平成29年度の活動

1 事業計画

平成29年度の主な事業は、健康応援室の開室（10日程度／月）、アウトリーチ（出張）活動として、南区各地で開催される健康づくり事業への協力、南区保育・子育て支援センターでの定期的な子育て相談の実施、健康応援室の効果判定に関する研究である。

2 主な活動

1) 有資格ボランティアとの協働による健康応援室運営状況

今年度3名が新規ボランティア登録をし、登録者19名のうち13名が活動中である。保有資格は保健師、看護師、管理栄養士、薬剤師で、専門性を活かした相談支援を展開している。ボランティアと教員によるミーティングを年2回開催し、協働で活動する意識を高めている。

2) 健康応援室の活動状況（1月末現在）

月平均7～10日間開室し、延べ日数は85日、来室者数は延べ552人で1日あたり約6.5人であった。利用目的の多くが健康チェックであり、継続来

室者も増えている。健康相談の内容は、健康チェックの測定結果に基づく生活習慣の振り返りが多かった。

3) アウトリーチ活動

①「常盤地区スマイルクラブ」出張

- ・実施日：平成29年7月8日（土）
- ・担当者：本田（教員）、坂東（ボランティア）、看護学部1年生2名
- ・実施状況・成果：36名が参加し、骨密度測定、体組成測定とミニ健康講話を実施した。



写真1 「常盤地区スマイルクラブ」での活動

②「もりの仲間さわやかクラブ」出張

- ・実施日：平成29年7月28日（金）
- ・担当者：原井（教員）、山村（ボランティア）、看護学部4年生4名
- ・実施状況・成果：来場者は約65名、足指力計、骨密度計による測定と結果説明を行った。

③「みんなでみに区る健康まつり2017」拡大開室

- ・実施日：平成29年9月27日（水）
- ・担当者：本田、伊東（教員）、山村（ボランティア）、看護学部1年生1名、2年生1名



写真2 「みんなで見に区る健康まつり2017」拡大開室



写真3 健康づくりサークル「ふまねっと」サポート

- ・実施状況・成果：骨密度測定、体組成測定を実施し、85名が参加した。

④「きて！みて！まこまる2017」拡大開室

- ・実施日：平成29年10月14日(土)
- ・担当者：菊地、近藤(教員)、大村(ボランティア)、看護学部1年生2名
- ・実施状況・成果：来室者39名。健康応援室において、健康測定全般と健康相談を実施した。

⑤「石山地区生き生き健康教室」出張

- ・実施日：平成29年10月19日(木)
- ・担当者：本田(教員)、結城、巢内(ボランティア)
- ・実施状況・成果：来場者67名が参加し、骨密度測定、足指力測定を実施した。

⑥「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」出張

- ・実施日：平成29年10月25日(水)
- ・担当者：菊地、小坂(教員)、岡崎(ボランティア)
- ・実施状況・成果：来場者97名が参加し、骨密度、足指力、血圧測定を実施した。

⑦「健康なまち定山溪『まちけん』」出張

- ・実施日：平成29年11月20日(月)
- ・担当者：菊地、伊東(教員)、結城(ボランティア)
- ・実施状況・成果：骨密度測定とストレスチェック、心の健康づくりミニ講話を実施した。

⑧「ちあふる・みなみ健康応援室ミニ出張講座」

- ・実施日：平成29年4月25日、6月15日、8月4日、10月5日、12月8日、平成30年2月13日
- ・担当者：渡邊、森川、石引、大友(教員ボランティア)
- ・実施状況・成果：母親から相談が多いことをテ

マとした講話と相談活動を行った。

4) 健康づくりサークル「ふまねっと」サポート

健康づくりサークルの企画・運営は全て学生が行っており、毎月1回定期的に活動を継続している。「まちの健康応援室」はサークルの活動日に合わせて開室し、サークルにはメンバーとして参加しながら活動を見守り、参加者の体調不良や転倒等に備えて対応可能な体制を整えた。

5) 健康応援室の継続利用による効果判定に関する研究

地域住民が「まちの健康応援室」を継続的に利用する効果を判定するため、市民41人を対象に平成29年4月から平成30年1月まで調査を実施した。10か月の期間に月1回の来室を依頼し、健康測定と健康観に関する質問紙調査を実施した。「毎月の来室により、自分の健康を振り返るよい機会になっている」という感想が聞かれている。

3 評価

平成29年度は、健康応援室の効果判定研究も実施したため、毎月継続して利用される方が多く、毎回平均6人の利用と多くの方に利用していただくことができた。また、南区各地における健康づくり事業からの出張依頼も多く寄せられ、「まちの健康応援室」の活動が周知され、地域に浸透されつつあることを実感する1年であった。

IV 今後の課題

今後は、効果判定研究終了後の利用者数の維持、増加について、広報活動と健康応援室の在り方を再検討する必要がある。また本事業は、大学における教育資源の一つに位置付けて、学生の教育と連動して活用されるよう検討していきたい。

4. 広報企画推進チーム

チームリーダー：吉田 和夫
代表幹事：柿山 浩一郎・猪股 千代子
メンバー：【デザイン学部】藤木 淳・石田 勝也・大淵 一博・須之内 元洋
【看護学部】喜多 歳子・田中 広美・三上 智子・石引 かずみ

I 平成29年度の事業概要・目的

本チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的としたチームである。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的として活動するチームであった。

II 平成29年度の役割

平成29年度は、本COC事業の最終年度ということもあり、これまでに本チームで構築した広報手段の安定的活用と、最終成果報告会の企画運営、本事業のまとめとしての映像作成を本チームの役割とした。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

本年度、本班に与えられた役割をもとに、具体的に以下の項目について活動を行うこととした。

- 1) 広報活動
- 2) 催事イベントの運営
- 3) COC事業の成果報告映像の作成
- 4) 平成29年度報告書、及び、最終成果報告書の企画編集

2. 主な活動

1) 広報活動

① 広報Webサイトの運用

持続的な運用を視野に入れ、平成28年度に札幌市立大学の学内サーバーにWebサイトを移植したことにより、Webサイトの運営費を大幅に削減した上で、滞りなく運用を行うことができた(図1)。また、平成27年度から開始したメールマガジンの配信を毎月1回行った。

② まこまる入り口サインの設置

本COC事業により本学COCキャンパスが設置さ



図1 本事業専用Webサイトトップページ(平成30年1月5日現在)

れた旧真駒内緑小学校には、他に4つの事業者が入居しており、建物の入り口が3箇所ある。本学COCキャンパスへのアクセスが容易な中央入口に、写真1のような入口サインを設置した。このサインは黒板塗料で塗装したものとなっており、事業者名、開館時間の変更があった場合に適宜修正可能な仕様とした。



写真1 まこまる入り口サイン

③スタートアップ演習統合パネル

COC事業に関連する演習科目である平成29年度1年次のスタートアップ演習の統合パネルを作成した(図2)。なお、後期科目である学部連携演習も、授業終了後に制作することとした(本報告書入稿後、制作予定)。

④まちの学校新聞

南区住民の皆様へ「まちの学校」の活動を周知する(回覧板での配布)「まちの学校新聞」を9月、1月に発行し、本事業のまとめを目的とした第8号を、年度末に発行する予定とした(本報告書入稿後、発行予定)。



図3 平成29年度「スタートアップ演習」統合パネル

2) 催事イベントの運営

①きて！みて！まこまる2017の運営

全まこまる入居事業者による全館イベントとして「きて！みて！まこまる2017」を10月14日に開催した(図3)。本学は、各種活動の展示、4件のイベント、2件の公開講座と健康相談にて、本学の活動を地域の皆様に伝達し、本班は全体の運営を行った。イベント全体としては445名、本学主催のイベントには327名の参加があり盛況に終わった。

②COC事業最終成果報告会(2月17日)

本COC事業5年間のまとめとして、ご協力頂いた札幌市南区を中心とした方々を対象とした、最終成

果報告会を企画した(本報告書入稿後、本会実施予定)。「『札幌市立大学「まちの学校」のこれまでとこれから -地域志向型教育・研究拠点および交流の場を目指して-』と題し本COC事業の成果を報告するとともに、今後の展望についてディスカッションを行う場を設計した。

3) COC事業の成果報告

映像の作成

5年間のCOC事業のまとめ映像を、ロングバージョン：25分30秒(予定)、ショートバージョン：約5分(予定)にて制作した(本報告書入稿後、完成予定)。

4) 平成29年度報告書、及び、最終成果報告書の企画・編纂

本COC事業最終年度ということから、平成29年度の活動報告に加え、過去5年間の事業報告の二部構成として、過去4年分のものと一部書式を改め学内に寄稿依頼を行い、報告書を作成した。

3. 評価

4年間を通して構築してきた広報の仕組みを継続的に運用し、本事業最終年度としての成果報告資料(報告書、報告映像)の作成を行うことができ、滞りの無い活動ができたものと評価する。



図2 きて！みて！まこまる2017 配布資料

5. COC特任教員

教育プロジェクトセンター 特任助教：藪谷 祐介

I 平成29年度の事業概要・目的

本事業全体が円滑に推進するために、教育・研究・社会貢献活動に関する各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力できるよう、連絡・調整、企画・運営に携わる。

II 平成29年度の役割

本事業において本学の教職員や学生、札幌市各課、各地域関係者などと連絡・調整を行うとともに、事業に関連する様々な団体や多世代、多セクターとのネットワークを形成するコーディネーターとしての役割を担う。必要に応じて、各チーム・班が担う教育・研究・社会貢献活動に対する支援を行いながら、事業が円滑に推進されるように「まちの学校」を中心とした事業の企画・運営にも携わる。学生に対しては主体的な社会貢献活動を支援する。

III 平成29年度の活動

1. 事業計画

- (1)教育改革(COCカリキュラム)を推進するために、異分野連携科目「スタートアップ演習」、「学部連携演習」、「地域プロジェクト」の授業を担当する。
- (2)COC事業に関する研究成果の発信の場を設けることで、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進する。
- (3)SCUまちの教室公開講座・授業公開、SCUまちの談話室による多世代・多セクターの交流企画、SCUまちの先生企画講座、SCUまちの健康応援室の企画・運営を推進する。
- (4)事業に関連するさまざまな団体や多世代、多セクターと交流する機会を作り、ネットワーク形成を行うとともに、積極的に広報活動を行う。
- (5)札幌市立大学COCキャンパス「まちの学校」の企画・運営および、「まちの学校」が入居する施設「まこまる(旧真駒内緑小学校)」の他の入居者(Coミドリ、ちあふる・みなみ、札幌市教育委員会)と連携体制を整える。
- (6)「COC STUDENT PLAZA」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会

貢献活動を支援する。

- (7)COC事業終了後の方針について検討する。

2. 主な活動

1) 教育改革(COCカリキュラム)の推進

- (1)他の専任教員とともに、「スタートアップ演習」と「学部連携演習」のグループを担当し、学生の指導を行った。また、「学部連携演習」に関しては、札幌市南区地域振興課との連絡・調整を行い、授業が円滑に運営できるよう科目責任者の支援を行った。
- (2)「きて！みて！まこまる2017」において地域団体との連絡・調整を行った。また、イベントにおけるサイン制作を「地域プロジェクトⅠ、Ⅱ」の1プロジェクトとして位置づけ、学生に対する指導を行った。

2) 地域志向型研究の推進

10月14日に開催した「きて！みて！まこまる2017」において、平成28年度COC共同研究に採択された研究課題の展示の機会をつくるための調整を行った。

3) まちの学校の活動の推進

- (1)SCUまちの教室公開講座・授業公開の企画や運営を推進させるための連絡・調整を行った。また、3月2日、9日に開催する講座「Evening Lectures - 欧州の暮らしとデザイン」の企画を行った。
- (2)SCUまちの談話室による多世代・多セクターの交流の企画・運営を推進させるため、「真駒内大風呂敷プロジェクト おおう」の企画、運営支援、および共催する真駒内団地商店街振興会との連絡、調整を行った。このプロジェクトは、まちの学校に市民交流の場を創出することを目的に、真駒内団地商店街振興会と共催で地域の盆踊で使用する櫓をおおう大風呂敷を制作するものである。
- (3)SCUまちの先生企画講座の企画や運営を推進した。具体的には、まちの先生講座「ポタジェサークル」、「観光ボランティアガイドって!」、「まこまない盆踊を「おおう」大風呂敷をつくらう!」、「指で描くパステル和(なごみ)アート はじめて講

座)、「松浦武四郎の軌跡と地図」、「カーリンコンをやってみよう!」の企画にあたり、講師となる先生、地域団体、他班との連絡・調整、および活動支援を行った。また、まちの先生運営委員として、まちの先生のしくみの検討、応募された企画の協議、講師の支援を行った。



写真1 ポタジェサークル

(4)SCUまちの健康応援室の企画や運営を推進するため、南区保健福祉部との連絡・調整を行った。結果、「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」(10/25)、「健康なまち定山溪『まちけん』」(11/20)への出張(アウトリーチ活動)につながった。また、札幌市南区のイベント「みんなでみに区る健康まつり2017」を、まちの学校を第2会場として実施した。イベントの実行委員となり、南区保健福祉部担当者、および学内教員との連絡・調整、およびイベント当日のレイアウト検討を行った。

4) 事業の広報・催事の企画推進

- (1)COC事業の取り組みを地域住民に周知することを目的に、広報チームで制作する「まちの学校新聞」の掲載内容の情報収集、文章作成を行った。
- (2)広報チームで制作したCOC事業の5年間のまとめ映像の制作支援を行った。
- (3)COC事業最終成果報告会「札幌市立大学「まちの学校」のこれまでとこれから—地域志向型教育・研究拠点および交流の場を目指して—」の企画立案・検討、および広報チームや学内教員、地域住民との連絡・調整を行った。

5)「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」の運営と「まこまる」入居者との連携

- (1)「まこまる」入居者同士の連携を推進することを目的に、「まこまる運営協議会」、「まこまる事前打合せ」に毎月出席した。
- (2)まこまる入居者が連携して施設をPRするために

開催された、合同イベント「きて!みて!まこまる2017」(10/14)において、イベントの企画・準備・運営、パンフレット制作、および学内との調整などを担当した。



図1 制作したパンフレット

(3)「地域プロジェクト」の課題として、まこまる中央入口サインの制作指導を行った。

6) COC STUDENT PLAZAによる学生支援

社会貢献を目的とした学生の主体的な活動「みんなで楽しくふまねっと」の企画・活動支援および、共催団体である「認定NPO法人ふまねっと札幌支部」との連携支援を行った。



写真2 まこまる中央入口のサイン制作

7) COC事業終了後の方針の検討

「COC事業終了後検討ワーキング」のメンバーとして、COC事業終了後の方針について他の教職員とともに検討した。

3. 評価

本学教職員や学生、札幌市各課、各地域関係者等との連絡・調整や、各チーム・班の企画・運営支援を努めたことにより、円滑に事業を推進することができた。「まこまる」の他の入居者とも効果的な連携ができた。また、学生への支援を行い、主体的な社会貢献活動が定着した。以上より、本年度の目的は達成できたと言える。

IV. 平成25年～29年度 (5年間)の事業総括

1. 教育改革推進チーム

I 概要・目的・役割

教育改革推進チームではこの5年間、COCに関わるカリキュラムの編成を目指し、「異分野連携の深化」、「地域志向科目の増強」、「地域志向科目のシラバスへの反映」の3点を目的に活動を行ってきた。「異分野連携の深化」については、開学時より実施してきた学部間連携科目である、スタートアップ演習と学部連携演習の2つを核としてより深い連携教育を、地域を題材とした演習を行うことで実現させてきた。「地域志向科目の増強」については、上述の演習をつなぐ新設科目として、「学部連携基礎論」の設計を行うことで、両演習を段階的に深化させる仕組みを作り上げ、平成29年度より開講させた。また、これら3科目の学びを地域活動として実践するため、地域プロジェクトⅠ（基礎編）、地域プロジェクトⅡ（応用編）、地域プロジェクトⅢ（発展編）を整備し、地域志向科目の骨格となる科目群を完成に導くことができた。「地域志向科目のシラバスへの反映」については、2年間に渡る教員の合意形成の過程を経て、本学が開設している科目の全てを対象とした調査を実施することで、申請時に掲げた目標を上回る地域志向科目を整備するに至った。本チームの役割は、デザイン学部と看護学部が開設された従前の科目の地域志向性を活用しながら、最小限の新設科目を追加することで、教育改革を実施することであり、5年間に築いた礎を将来にわたり、存続可能なカリキュラムに昇華することであった。

II 主な活動内容

1. 異分野連携科目の深化

平成25年度、地域志向のカリキュラム改革の第一段階として、デザイン学部と看護学部の3年次開講必須科目である学部連携演習において、札幌市南区の地域課題に関する学習を開始させた。また、開学時から学部連携演習とともにやってきた1年次のスタートアップ演習においても、同様の学習を開始させた。実際の授業では、それまでの連携教育としての科目目標はそのままに、プロジェクト学習のフィールドを札幌市南区の10地区に定め、両学部が連携した学びを地域で展開させることから始めた。COC開始間もない状況で準備に行き届かないことが多くあったが、申請時の計画どおり、両科目でそれ

ぞれ2回のバスを利用した地域調査を敢行した。学部連携演習では、従来行ってきた授業評価の基準の改善を試み、地域志向科目として追加が必要な教育評価についても見直しを行なっている。具体的には、アウトカム評価、および個人活動評価票の導入であり、前者は両学部の担当教員全員が最終発表会の採点評価を行い、成績に反映したこと、後者は学生自身に学習の観点やプロセスを予め示すとともに、それらに対する達成度を自己評価させ、担当教員の行う成績に反映させる試みである。

当該活動の初年度の評価としては、厳しい側面も多くあった。まず、学内における評価として、過密な授業スケジュールへの不満が学生教員ともに生じていた。授業日程に制約の多い中、事前の予約を要する2回のバス利用を課すことには困難を伴う。また、学部連携演習については、開講と同時期に看護学部の実習が数週間にわたり行われることから、看護学部の学生がプロジェクトワークに参画できない期間が生じる。学外からの評価についても、大学の都合で定められた調査日程に合わせて協力することが困難である点や、学生とのコミュニケーションの齟齬等、教育に参画いただいている地域からはお叱りをいただいた点も多かった。

平成26年度については、スタートアップ演習と学部連携演習において、バスを利用した調査日程の自由度を上げるなど、授業進行に負担のかからないような配慮を行うとともに、札幌市南区地域振興課との連携を強化し、10地域の連合町内会への事前説明を行う等の対策を行いながら授業を展開した。なお、学部連携演習の最終発表会は、教育にご協力いただいた地域の方々を招くことができるよう、この年度から公開発表会として芸術の森キャンパスのアリーナで開催するように変更した。教育評価については、前年度に学部連携演習で開始した個人活動評価票を分析した結果、デザインと看護の連携やグループ内コミュニケーション能力の向上等を確認することができたことから、演習の目的は充分達成されていることを確認した。個人活動評価票は、小さな変更を加えたが、2年目も引き続き継続することにした。

平成27年度のスタートアップ演習は、地域志向科目全体としての位置付けを明確化し、初期段階で必

要な学習として授業内容の修整を行った上で開講した。すなわち、前年度のようにプロジェクト学習を通じて、地域の課題を見つけ出すという目標に重点を置くのではなく、地域に親しむ、地域を知る、といった地域志向科目としての導入に重きを置いた授業内容に改めたのである。また、授業最終日に地域志向科目としての効果を検証するため、調査を行ない、修整した授業内容が地域への関心を深めることにつながったことを確認している。学部連携演習については、前年度に行った方法を踏襲して開講し、アウトカム評価と個人活動評価票による教育評価についても継続して行った。

平成28年度のスタートアップ演習、学部連携演習は、これまでに構築した授業内容の検証を行いながら、異分野連携科目の深化を確認しながら実施した。また、次年度からはじまる学部連携基礎論との接続を円滑に行うために、それぞれの科目の内容を吟味し、「異分野連携の段階的理解」と「地域について調べる」という科目目標に必要な要素の抽出を行なった。

最終年度である平成29年度は、スタートアップ演習、学部連携基礎論、学部連携演習という、3科目の異分野連携科目が完成した。すなわち、連携の意義を考えるスタートアップ演習、連携の理論や効用を学ぶ学部連携基礎論、連携の実践を図る学部連携演習の段階的な学習がカリキュラムに完成されたのである。また、地域志向科目としての特性としては、地域を知るスタートアップ演習、地域について調べる学部連携基礎論、地域について提案を創る学部連携演習といった、段階的な学習もカリキュラムに実現させることができた。これらの科目はいずれも必須科目であり、すべての学生が受講するものであることから、本学の異分野連携科目の深化を図ることができたと考える。

2. 新設科目展開・地域科目の増強

平成25年度、地域志向カリキュラムの編成を目指し、地域志向科目の増強、およびそれらの科目のシラバスへの反映方法の検討を開始した。本学が従来から開講している科目の中には、地域志向科目としての適性を有するものも多いことが予想されたことから、初年度は、これらを抽出する作業を行なうことにした。シラバスへの反映の具体的方策については、地域志向科目であることを表明するマークを該当科目のシラバスに明示する提案を行なったが、教員間での合意形成の過程で、地域志向科目の定義について議論を深める必要があることを確認し、次年

度にその検討を行うことにした。

平成26年度は、地域志向科目に対する教員の共通認識を培うことを目標に、合計3回のFD (Faculty Development：大学教員の教育能力を高めるための実践的方法) を実施し、学内の意見調整を行った。第1回目は「地域志向を考える」と題し、両学部教員混成の5グループで地域志向をどのように捉えるかを協議した。また、この内容は全体討議で共有し、本学が考える地域志向科目の特性としてまとめた。第2回目は「地域志向性を取り入れたカリキュラムを考える」と題して開催し、レクチャーの後に行った意見交換で地域社会への貢献に基づいたカリキュラム評価が重要であることを共有した。第3回目は「異分野連携科目(地域セミナー)を実現する」と題して、新設科目である「地域セミナー」(最終的な授業名称は地域プロジェクトに変更された)の目的の共有や実現に向けた方策のアイデアを出し合った。これらのFDは両学部の多くの教員が参加し、地域志向科目に対する共通認識を得ることにつながった。地域志向科目のシラバスへの反映はこうした合意形成を経て、COC事業2年目に初めて実施できたものである。シラバスへの反映については、当初計画していたマークを明示する方法ではなく、各科目の科目責任者が作成したシラバスに、地域志向科目である内容に自らアンダーラインを付けて申告する方法をとることにした。

平成27年度は、シラバスを元に地域志向科目の点検と分析を初めて行った。その結果、本学の地域志向科目はCOC開始時に比べ確実に増えており、この時点で既に予定数を上まわっていることを確認している。

一方、平成28年度からは両学部でカリキュラム改編を予定していることから、新カリキュラムにおける、地域志向科目の増強は確実に実行できることも推測できた。次年度新設科目となる地域プロジェクト(事業申請時の名称は地域セミナー)の具体的な授業計画、平成29年度に開講する学部連携基礎論、を重点的に検討したのも平成27年度であった。双方の科目について、両学部の新カリキュラムと調整を重ねた結果、地域プロジェクトは4年間の学習の中でいつでも受講できる自由科目として、学部連携基礎論は2年次の必須科目として、それぞれ位置付ける点で合意を得た。これらの調整は教育改革推進チームが授業内容や実施方法を提案し、全学委員会である教務学生連絡会議でカリキュラム全体との整合性を審議するといった手順で慎重に進めたものである。

平成28年度は、地域プロジェクトを初めて開講し

た。受講対象学生はこの年度に入学した新カリキュラムの1年生のみであったが、自由科目であるにも関わらず予想を上回る受講者があった。地域プロジェクトは、複数の教員が地域に関わる各々のプロジェクト課題を持ち寄り、学生に学ぶ機会を提供する授業形式を取る。教員が抱えるプロジェクトはこれまでも潜在しており、自由科目とはいえ、参加学生に単位を出すことができる点は教員にとっても望ましいことであった。ただし授業としては、科目責任者が年度最初のガイダンス、および当該年度に実施するプロジェクトの紹介、プロジェクトワークの講義などを行い、この内容を踏まえて、各々の教員の元でプロジェクト学習を行うものであり、授業の最後には参加したプロジェクトの合同報告会も設けることにした。教育改革推進チームでは、授業の進行に伴い、地域志向科目として成果が予想以上に大きいことに気づきはじめた。そして、在学中の1回限りの学びで終わらせるのではなく、受講した学生がその後も継続して受講できる方法を模索しはじめた。地域プロジェクトをⅠ・Ⅱ・Ⅲの3科目とし、それぞれを、基礎編、応用編、発展編として再構築するアイデアがこの過程で生まれ、新カリキュラム開始早々に実現に向けた調整を行うことにした。前年度の活動に示したように、カリキュラムの変更は全学委員会である教務学生連絡会議とともに慎重に進める必要があるが、これに加え、この案件については文部科学省との調整が必要であった。

平成29年度は、学部連携基礎論を開講するとともに、前年度に開講した地域プロジェクトを地域プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲに変更し、改訂を行なった。学部連携基礎論については、期待した以上の学習成果が得られたが、校地をまたぐ授業実施の方法には改善の余地が見られたため、各校地への講師の配置方法や、後半グループワークの進捗の共有などの改善を協議し、次年度実施に向けた対策を行なった。また、地域プロジェクトの改訂は受講者の大幅な増加を促すこととなり、教育改革推進チームで提供した学びの機会の提供は有効であったことが確認できた。平成30年度は地域プロジェクトⅢを開講し、新設科目展開が完成するが、必須の授業として展開している異分野連携3科目とともに、そこで学習した成果を自由科目で試すことのできる柔軟なカリキュラムを整えることができたと考える。

Ⅲ 総括

5年間の教育改革は、順調に進んだ訳ではない。大

学内に閉じた教育改革であれば、勝手のわかった手法で改革を行うことも可能であるが、教育の場を地域に移す地域志向科目では、地域に教えを請う場面は非常に多く、社会的な仕組みの中で大学教育を実践していく必要があった。こうした過程の中で、様々な行き違いを経験したのも、今となっては重要な成果であったといえる。例えば、時間の約束ひとつとっても調整には困難が伴う。授業時間内での地域への移動や、約束する日にちの設定など、必ずしも大学の都合では対応できない。事業の設計段階では、地域と関わるこのような現実でさえ、大学は見逃してしまう傾向にあり、その結果、地域に対応していただく方々はもとより、受講学生や担当教員でさえ、困難な事態に陥ってしまった。このように、5年間の経験は、カリキュラムの大枠のみならず、些細とも思える問題をひとつひとつ解決していく取り組みでもあった。また、当初は地域と連携して教育を実施する上での基本的な合意形成もできているとはいえなかった。大学生が地域の間をかりて学ぶことに対して、地域にどのような意義と負担を担っていただくことになるかを、大学側も地域も正確な予測ができずに開始したことで、各々が期待していた内容とは大きく異なり困惑する事態もしばしば経験した。教育を主導する大学側としては、その目的を丹念に説明し、その都度、ご理解いただくことに徹する他ないが、一方で、何らかのかたちで教育いただいたご恩を還元できないかと悩むようになる。教育の恩は教育の成果として地域に還元するのが、もっともわかりやすいやり方ではあるが、毎年の授業の成果物(提案)を差し出す方法では充分とはいえない。また、差し出すこと自体がうまくできるようになるためにも、授業計画にもうひとつ工夫が必要である。教育改革推進チームとしては、こうした教育では補いきれない地域貢献を、本学の研究や教育以外の地域連携活動として還元する包括的な仕組みに組み入れることで実現させる必要を改めて訴えたい。

事業2年目に、「教育のプロセス」という模式図を作成した(図1)。この図を作成するにあたり、最上段に本チームに関わる「教育」を掲げるとともに、中段には「研究」、下段には「社会貢献」を掲げた。上段に示した「教育」は、スタートアップ演習→学部連携基礎論→学部連携演習と地域学習を段階的に深化させる方策を示している。これらの学習の先には、4年次の卒業研究や大学院での地域プロジェクト演習を位置付けており、学習の成果が徐々に研究の題材として結実する様子を示している。また、右に広がる紫

色の領域は、中段の研究に向かって広がる様子を示しており、教育の成果が少なくとも研究の起爆剤として作用することを示した。事業開始5年を経た現在、まさにこの部分がどのように結実されようとしているかが試されているのではないかと考える。地域で教育に協力していただき、大学はそのお礼として地域の発展に役立つ持続的な研究を展開し、関わり強化を図る。関わりが強化されることで、毎年、繰り返される教育に、その意義を自然と見出さずにはいられないような継続性のある地域との関わりを築くことができるかを、我々は問われていると考える。

一方で、地域志向に対する大学内の考え方はこの5年間で大きく変わった。これは、教育改革推進チームの構成員だけでなく、全学教職員に及ぶ変化であったと感じている。大学教員が全員参加で臨んだCOC事業は、各々が所属するチーム以外の活動情報も横目で見ながら進めたものである。チームの課題をチーム単独で解決しようとするのではなく、幹事会や推進会議などの組織を設けることで共有しながら進めてきた。事業2年目に教育改革推進チームが重点的に企画したFDは、チーム固有の課題を持つ教員を交えて協議したものであり、さまざまなアイデアが出される有益な機会となった。教育改革推進チームでとった諸処の方策も、こ

うしたアイデアから導かれたとって過言ではない。各々の立場で地域を考え、大学が取りうる手段を試みたことは、この5年間を経験した教員にとっては今後に影響する大きな経験となったことは間違いないと考える。こうした教員が今後行う教育である点において、本学のCOC教育改革は着実に根づいたと判断できる。

IV 今後の課題

COC事業を終了するにあたり、教育改革推進チームとしては、以下を今後の課題としてとらえている。第一に、「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲについて、平成30年度の完成を目指し、学生にとって魅力的な地域志向科目であり続けるよう継続すること」。第二に、「異分野連携科目の段階的学習プロセスについて、いまいちど、目的にあったものであるかをチェックすること」。第三に、「地域志向学習において、教育目的を曲げることなくテーマの持続性が実現できないかを検討すること」。第四に、「教員や大学院生の研究に結実しやすいテーマ設定を考え、教育から研究へのつながりを計画すること」の4点である。以上の課題については、本事業の実施に関し、教育改革の提案審議を行ってきた学部教務学生連絡会議に、今後の取り組みを委ねるものである。



図1 「教育のプロセス」の模式図

2. 研究企画推進チーム

I 概要・目的・役割

地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COCリサーチ」の企画・推進を図る。

II 主な活動内容

1. ウェルネスサイエンスの研究推進に向け、「COC共同研究費の応募要領」を整備した。
2. ウェルネスサイエンスの研究推進として、地域課題の解決に寄与する「COCリサーチ共同研究」の公募・採択を実施した。その結果は表1の通りである。なお、これらの研究成果は、COCキャンパスにおける各種イベント、関連学会および本学の研究交流会等で報告し、広く公表した。
3. COC研究基盤の整備・研究関連調査として、「地域志向」の研究動向調査を継続して実施した。なお、「平成29年度の地域に密着した」研究の実態調査結果は、下記の通りである（担当：神島滋子、大友舞）。

1) 目的：COC事業内に留まらず学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容を把握することで、今後のCOC活動の参考にすること。

2) 調査概要

①対象：札幌市立大学教員（除、休職および特別休暇中の教員）デザイン学部35名、看護学部41名、計76名

②調査期間：平成29年11月

③調査方法

i 質問紙調査：質問紙をメールで配信し、メール返信により回答を得た。

ii 調査項目は所属学部、地域に密着した研究への取り組み状況、研究テーマ、開始年度、終了年度（または継続中）、研究代表者名、対象地域、地域の研究協力者・共同研究者の8点である。なお、「地域に密着した」研究とは、COC事業での研究に限らず、「地域との関係の中で調査・分析される」「地域活性等につながる制作研究」「地域との交流実績やワークショップの記録」とした。

iii 分析方法：「地域に密着した」研究への取り組み状況は、単純集計した。研究テーマは、内容をカテゴリに分類した。

3) 結果

①回答数（回答率）の概要：回答数は26名で、回答率は34.2%であった。学部別内訳はデザイン学部11名（42.3%）、看護学部15名（57.7%）であった。学部別の回答数は、デザイン学部35名中11名（31.4%）、看護学部41名中15名（36.6%）であった。

②「地域に密着した」研究への取り組み状況

「地域に密着した」研究に取り組んでいる教員は20名（76.9%）、取り組んでいない教員は6名（23.1%）であった（図1）。平成28年度との比較を図2に示す。学部別にみるとデザイン学部では取り組んでいる11名（100%）であった。看護学部では取り組んでいる9名（60.0%）、取り組んでいない6名（40.0%）であった。教員が取り組んだ研究数の範囲は1件から21件であった。研究に取り組んでいる教員の研究数平均は3件であった。学部別にみると、研究に取り組んでいる教員の研究数は、デザイン学部で

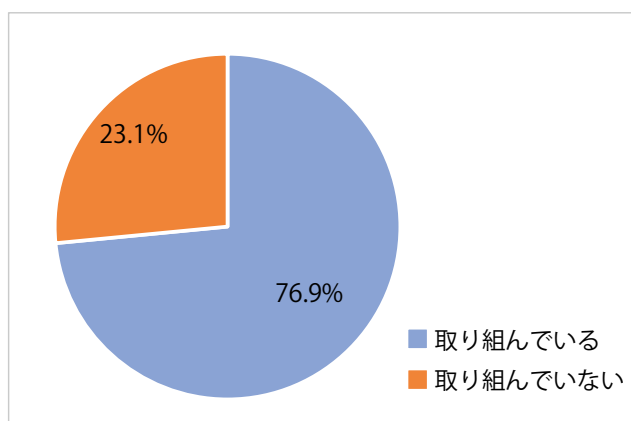


図1 「地域に密着した」研究への取り組み状況（全体）

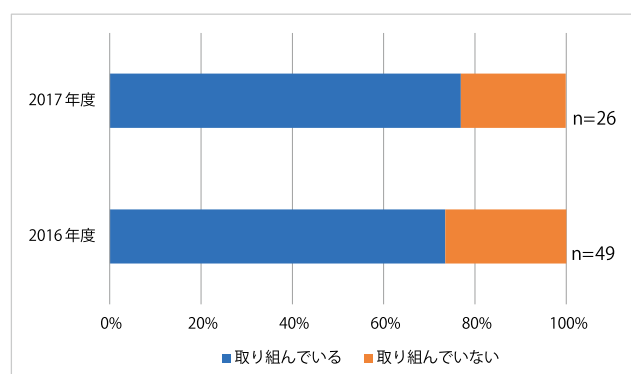


図2 「地域に密着した」研究の取り組み状況 調査年度間の比較

表1 COC共同研究費採択研究課題

年度	COC共同研究費採択研究課題	共同研究者(○研究代表者)
平成25-26年度	〈南区ウェルネス支援に関する研究〉 南区にお住まいの65歳以上の方の健康に関するニーズ調査	○スーディ神崎和代・石井雅博・杉哲夫・矢部和夫・張浦華・山田良・川村三希子・村松真澄・神島滋子・貝谷敏子・山内まゆみ・渡邊由加利・檜山明子・御厩美登里・吉川由希子(平成25年度)
平成26年度	人生の終焉を自分らしく生ききるためのガイドー意思決定を支援する事前指示書の作成と検証ー	○スーディ神崎和代・御厩美登里
	市民参画型のSCU模擬患者養成プログラムの開発ー共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指してー	○河原田まり子・貝谷敏子・上村浩太・原井美佳・坂東奈穂美・御厩美登里・樋之津淳子
	リソースナースの地域活用によるシームレスな連携体制の構築と効果の検証	○貝谷敏子・川村三希子・菊地ひろみ・石井雅博
	地域に根差した盆踊り文化の記録と継承に関する研究	○松永康佑・細谷多聞
	札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化	○中田亜由美・藪谷祐介・金子晋也・スーディ神崎和代
平成27年度	地域住民を交えたデザイン・看護合同シミュレーション教育の基礎的研究:ICT活用科目における学生の視点での言語的および非言語的評価	○スーディ神崎和代・柿山浩一郎・御厩美登里
	気候性地形療法に基づく定山溪地域におけるヘルスツーリズムの検討	○三谷篤史・定廣和香子・上田裕文・細谷多聞・田仲里江・樋之津淳子
	廃校活用を目的とした空間デザイン手法に関する研究	○藪谷祐介・山田良
平成28年度	「まちの健康応援室」有資格ボランティアとの協働による健康支援活動の検証	○菊地ひろみ・小田和美・原井美佳・小坂美智代・坂東奈穂美・近藤圭子・松永康佑・金秀敏
	〈南区住民のウェルネス支援に関する研究〉 南区に住む、就学前の子どもを育てる世帯の子育てに関するニーズ調査	○山内まゆみ・渡邊由加利・檜山明子・御厩美登里・村松真澄・貝谷敏子・神島滋子・山田良・張浦華・石井雅博・矢部和夫・スーディ神崎和代
平成29年度	「まちの健康応援室」有資格ボランティアとの協働による健康支援活動の検証 ー「まちの健康応援室」継続利用の効果判定ー	○菊地ひろみ・本田光・原井美佳・伊東健太郎・小坂美千代・松永康佑・金秀敏・近藤圭子

平均3.54件、看護学部で平均2.3件であった。開始年度に見た学部別研究数は、デザイン学部では平成21年度1件、平成25年度2件、平成26年度3件、平成27年度6件、平成28年度12件、平成29年度15件であり、看護学部では平成27年度2件、平成28年度が最も多く14件、平成29年度5件であった。

③研究の対象地域：研究対象地域を集計した結果、

札幌市が最も多く47件であった。そのうち札幌市南区における研究数をまとめると23件(48.9%)であった。札幌市外の北海道を対象とした研究数は5件(8.3%)であった(表2)。

④研究のテーマ：調査により収集した研究テーマの概観を表3に示す。研究テーマは、昨年度と同様に地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境の改善・充実に関連した研究、地域住民の生きが

表2 「地域に密着した」研究の対象地域 n=60 (複数回答)

地域	数
北海道	5
札幌市	21
札幌市南区	22
札幌市南区定山溪地区	1
札幌市西区琴似地区	2
札幌市清田区	1
赤平市	1
帯広市	1
釧路市	1
伊達市	1
登別市	1
別海町	1
豊浦町	1
白老町	1
壮瞥町	2
幌加内町	1
洞爺湖町	1
豊浦町	1
渡島地区	1
不明	2
合計	68

いに関連した研究、その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、企業との共同開発等)に分類された。

4) 考察

平成29年度に本学の教員が取り組んだ「地域に密着した」研究実態を調査した結果、回答率は34.2%であった。地域に密着した研究に取り組んでいる教員の割合は7割以上であったことから、研究的視点から事象をとらえたうえで地域に密着した活動に取り組む、といった大学教員としての姿勢が今年度も明らかになった。そのような取り組み姿勢は、平成27年度のそれが6割だったことと比較すると、地域に密着した研究に取り組む割合が増加しており、さ

らに平成29年度はCOC事業最終取り組み年度であることから、COC事業への取り組みを通して地域志向の研究活動が活性化した可能性を示したと言える。

開始年度の時期について、平成28年度から平成29年度の開始とする研究が多かったことから、地域に密着した「COCリサーチ」推進の成果であると捉えられる。

研究の対象とした地域は、札幌市南区に限らず、札幌市内を地域とする研究で6割をしめた。本学の設置母体が札幌市である公立の大学であることから、研究成果を札幌市全体に還元しようとする本学教員の意志が伺える結果であった。さらに、北海道内を対象とする研究で9割以上を占めたことから、1つの「地域」の範囲を「北海道」と捉えている大学教員が多いと推察できた。

地域に密着した研究テーマを概観すると、地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境に関連した研究、地域住民の生きがいに関連した研究など多岐にわたっていた。平成28年度との比較では、生活環境の改善や地域住民の生きがいに関連したテーマが増えていることに加え、教育やコンソーシアム開発、企業との共同開発など教育活動に関連した研究が急増している。COC事業で薦める教育推進の影響も良好にあらわれてきていると推察される。

III 総括

- 1) 本チームの運営は、表4に示すメンバーで担当した。
- 2) COCリサーチ共同研究については、平成25年度は本チームメンバーによる研究1件が採択された。平成26年度～29年度においては13件の応募があり、そのうち11件を採択した。なお、採択された研究を担当した教員は看護学部・デザイン学部合わせて73名であった(表1参照)。
- 3) COC評価部門からの評価結果について、特記すべき事項は下記2点である。

表3 地域に密着した研究テーマ 概観

テーマ概観	研究テーマ数	
	2016年度調査	2017年度調査
地域住民の健康課題に関連	15	3
生活環境の改善・充実に関連	18	28
地域住民の生きがいに関連	3	3
その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、企業との共同開発等)	7	26

表4 COC事業「研究企画推進チーム」メンバー

年度	研究企画推進チームメンバー（◎チームリーダー、○幹事）
平成 25年度	◎スーディ神崎和代・川村三希子・貝谷敏子・村松真澄・神島滋子・渡邊由加利 吉川由希子・檜山明子・御厩美登里・武邑光裕・矢部和夫・杉哲夫・張浦華 石井雅博・○山田良
平成 26年度	◎スーディ神崎和代・川村三希子・村松真澄・神島滋子・貝谷敏子・山内まゆみ 渡邊由加利・檜山明子・御厩美登里・武邑光裕・矢部和夫・杉哲夫・張浦華 石井雅博・○山田良
平成 27年度	◎スーディ神崎和代・○貝谷敏子・村松真澄・山内まゆみ・渡邊由加利・神島滋子 檜山明子・御厩美登里・矢部和夫・張浦華・石井雅博・山田良
平成 28年度	◎宮崎みち子・神島滋子・村松真澄・渡邊由加利・山内まゆみ・檜山明子 御厩美登里・大友舞・矢部和夫・張浦華・○三谷篤史
平成 29年度	◎宮崎みち子・神島滋子・村松真澄・渡邊由加利・御厩美登里・大友舞 矢部和夫・椎野亜紀夫・張浦華・○三谷篤史

①平成27年度の評価結果は、「研究活動の指標の達成が低い。予算削減も理解できるが当初の指標自体に瑕疵があり、現状では最終年度までに達成することは困難である。指標の再検討が必要である」であった。これに対し再調査・再検討をした結果、次の点が明らかとなった。研究計画において、札幌市および関連団体の受託研究・共同研究を基準とした数値目標は、本学における研究の進捗状況全体を示すには妥当性に乏しい可能性がある。特に、受託研究等の外部資金による研究件数は、一様に増加するものではなく、増減を繰り返す傾向を示しているため、一概に減少していると断定しがたい。

②平成29年度の評価結果は、「研究数が漸減している。高齢者ニーズ調査については、調査しただけに見える」であった。研究件数は、本事業開始時の平成25年度1件、同26年度6件、同27年度3件、同28年度2件および同29年度1件と、評価部門の指摘の通り漸減傾向であった。しかし、教員の地域志向の研究実態調査から、「地域に密着した研究」の取り組み状況（平均）は、平成27年度41件（1.8件）、同28年度45件（1.8件）、同29年度68件（3件）であった。したがって、COC共同研究に限定せずに、幅広く地域志向の研究がなされていることは明らかである。

また、高齢者ニーズ調査結果の成果は、①報告書の作成と配布（主な配布先：まちづくりセンター、札幌市、南区役所、関心のある市民）、②本学HPに掲載、③南区住民に対する報告会の開催（平成26年9月）、④学内教員が利用可能なデータシステムの作成と活用推進（平成26年度）、⑤関連学会での発表、

⑥COCキャンパスにおける各種イベント時のパネル展示、⑦高齢者向け「口腔の清潔」に関するリーフレットの作成・配布（平成29年10月）等の形で活用している。評価部門には、このような活用状況を確認の上での評価を期待する。

なお、本データに関する行政部門との連携・協働に関しては今後の課題である。

IV 今後の課題

本チームの役割は、地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COCリサーチ」の企画・推進を図ることであった。

5年間のチーム活動の結果、COC共同研究の成果および教員の「地域に密着した研究」の推移から、地域志向の研究は一定程度深まってきたと考える。この傾向が今後も継続するよう、本学の理念である「人間重視と地域貢献」を核とした、各教員の研究活動が期待される。

また、高齢者ニーズ調査のデータは、その有効活用に向け学内のみならず、札幌市（特に南区）との連携・協働の手続きを模索していく必要がある。

3.1 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの教室〉班

I 概要・目的・役割

「まちの教室」班の目的は、デザイン学部・看護学部の専任教員による市民向け「SCUまちの教室」を企画・運営し、地域貢献を図ることである。

II 主な活動内容

1. 「SCUまちの教室（公開講座・授業公開）」の企画・運営

「SCUまちの教室」は、公開講座と授業公開で構成されている。公開講座は、デザイン学部・看護学部の専任教員による単発、連続のいずれかで公開する。授業公開は、デザイン研究科の正規授業の一部を公開する。

2. ウェルネスに関する企業・団体との交流事業の企画・運営

本学のデザイン・看護分野の特色を活かした研究成果を公表し、産学官金の連携強化を図ることを目的として「SCU産学官金研究交流会」を地域連携研究センターの主体で実施する。また、ウェルネスに関する企業・団体との連携によって、教室班企画による市民向け公開講座を実施する。

III 総括

- (1) 「SCUまちの教室」公開講座は、事業期間合計で229回（教員登壇者数：237人）を実施した。なお、デザイン学部・看護学部の全ての専任教員が企画立案・講座の講師として運営に関わることを目指した全学運営率は、事業期間累計[※]で94.9%となった（デザイン学部：100%・看護学部：90.5%）。
- (2) まちの教室班企画のウェルネスに関する企業・団体との交流事業を毎年度実施した。また、「SCU産学官金研究交流会（平成28年度まで「SCU産学官研究交流会）」を毎年度、地域連携研究センターの主体で実施した。

※）平成29年度末に在籍している全教員数（78人）に対する講座の実施教員数（74人）。但し、退職者の実施分も含む。

IV 今後の課題

「SCUまちの教室」公開講座の全学運営率は、事業期間内で94.9%に達したので目標は概ね達成できたとと言える。また、ウェルネスに関する企業・団体と

の交流事業も毎年度実施するとともに、「SCU産学官金研究交流会（平成28年度まで「SCU産学官研究交流会）」を毎年度、地域連携研究センターの主体で実施することで、地域の産学官、金融機関等との連携の基盤を形成することができた。今後は、本学が主体となって事業期間内で築いた連携をさらに発展させていくことが課題である。



写真1 地球環境時代の寒冷地の住まいを考える



写真2 国道453号線をグリーンカーテンでつなげよう



写真3 札幌芸術の森：紅葉の中の彫刻



写真3 札幌市立大学看護学部のモンゴル支援



写真7 昆虫のデザイン



写真4 アメリカ小説の女性たち



写真8 老活ゼミナール



写真5 真駒内のまちづくりを考える



写真9 南区の人口減少とその将来を考える



写真6 真駒内駅花いっぱい花壇づくり

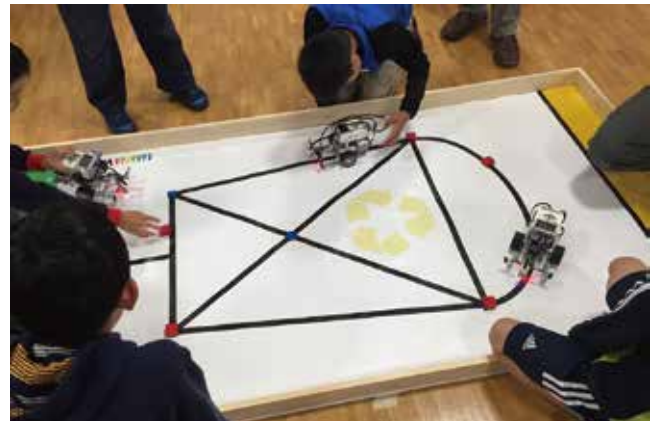


写真10 ロボットづくり講習会



写真11 オリンピック・パラリンピックと都市計画



写真13 じょうぶな骨をつくらう！



写真12 札幌オリンピックと真駒内の想い出



写真14 「在宅医療」知っていますか？

表1 「SCUまちの教室」公開講座 開催一覧

●平成25年度

開催日	講座名	講師
2/20(木)	地球環境時代の寒冷地の住まいを考える ―住宅の省エネルギー基準の改正をきっかけとして―	澤地 孝男・福島 明・斉藤 雅也
3/24(月)	地域の人々と学生が共に学び合う“学び舎”について	中原 宏・中村 恵子・酒井 正幸・ 斉藤 雅也・清水 光子・杉本達彦

●平成26年度

開催日	講座名	講師
6/2(月)	国道453号線をグリーンカーテンでつなげよう ウェルカムロードプロジェクト2014キックオフ勉強会	斉藤 雅也
6/21(土)	親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	三谷 篤史
8/24(日)	メカトロ講座・ロボットカーを走らせよう	三谷 篤史
10/18(土)	札幌芸術の森:紅葉の中の彫刻	矢部 和夫
10/29(水)	札幌市立大学看護学部のモンゴル支援	松浦 和代・大野 夏代
11/8(土)～1/31(土)	アメリカ小説の女性たち[全5回]	松井 美穂
2/13(金)	真駒内のまちづくりを考える - ヨーロッパの先進事例を通して -	杉本 達彦・藪谷 祐介

●平成27年度

開催日	講座名	講師
5/9(土)	「都市の時代」から「地域の時代」へ	蓮見 孝
5/14(木)	真駒内駅花いっぱい花壇づくり	吉田 恵介
6/21(日)～11/8(日)	WRO競技会講習会[全9回]	三谷 篤史
6/27(土)	親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	三谷 篤史
7/4(土)	昆虫のデザイン「多様なかたちに意味はあるのか？」	酒井 正幸
7/20(月)	「風の子Go! Go!」 in Coミドリ	小宮 加容子
8/8(土)	connekid in そらのガーデン2015「風の子Go!Go!」	小宮 加容子
8/22(土)・1/9(土)	メカトロ教室・ロボットカーを走らせよう[全2回]	三谷 篤史
10/25(日)・11/22(日)	すこやかに生きるための知恵[全2回]	村松 真澄・法邑 美智子
10/26(月)	シミュレーション教育の先進的施設の紹介 -アメリカにおける視察報告: BarrowとUCLA	村松 真澄・三谷 篤史
11/28(土)	生活習慣病予防講座: 少量の飲酒は本当に健康に良いのか?	藤井 瑞恵・大西 浩文
12/5(土)	「学び舎」で考える、障がい者アートから地域創生へ	上遠野 敏・中田 亜由美
12/19(土)	昆虫のデザインPart II「かたちの進化とヒトとの関わり」	酒井 正幸
1/6(水)・1/9(土)	老活ゼミナール ～すこやかに暮らす知恵～[全2回]	田中 広美・村松 真澄・田頭 正一
1/13(水)	おもちの季節の「のどつまりの予防、すばい発見と対応」	松浦 和代・上村 浩太・三上 智子・柏倉 大作
1/30(土)	手で描く、手で創るデザイン	石崎 友紀
2/19(金)	南区の人口減少とその将来を考える	原 俊彦
2/27(土)	北海道の建築の魅力	金子 晋也
2/27(土)	冬場に多い高齢者の救急疾患とセルフケア(緊急度自己判定)	菅原 美樹
3/1(火)・3/8(火)	札幌市の文化財建造物をたどる<冬> ～札幌市資料館と旧永山武四郎邸～[全2回]	羽深 久夫
3/4(金)・3/18(金)	『風と共に去りぬ』とアメリカ南部社会[全2回]	松井 美穂
3/5(土)・3/26(土)	コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える[全2回]	藪谷 祐介・植田 俊

●平成27年度(つづき)

開催日	講座名	講師
3/12(土)	事前指示書の意味と書き方	スーティ神崎和代
3/13(日)・3/21(月)	ロボットづくり講習会 初級編[全3回]	三谷 篤史
3/28(月)	ユニバーサルツーリズム都市札幌を考える	酒井 正幸

●平成28年度

開催日	講座名	講師
4/10(日)～5/15(日)	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム初級編)[全3回]	三谷 篤史
5/29(日)	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム初級編)追加講座	三谷 篤史
6/19(日)～7/18(月)	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム中級編・上級編)[全3回]	三谷 篤史
8/21(日)	ロボットづくり講習会 WRO2016札幌大会	三谷 篤史
9/22(木)～10/23(日)	ロボットづくり講習会、マイコンレーサー講習会(初級編、中級編)[全3回]	三谷 篤史
11/6(日)	ロボットづくり講習会、マイコンレーサー講習会(上級編)	三谷 篤史
11/20(日)	ロボットづくり講習会、第2回マイコンレーサー北海道大会	三谷 篤史
2/26(日)・3/19(日)	ロボットづくり講習会[全4回]	三谷 篤史
6/4(土)～6/25(土)	エドウィン・ダンと真駒内のまち[全3回]	中原 宏
6/25(土)	親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	三谷 篤史
7/3(日)	立体お面工作スタジオ	石井 雅博・松永 康佑
7/23(土)	昆虫のデザイン「臭いやつほど美しい」	酒井 正幸
8/27(土)・9/3(土)	デザイン・アートと数学 ～「数」を切り口にさまざまなデザイン・アートを考える～[全2回]	大淵 一博・松永 康佑
8/2(火)～2/14(火)	まちの健康応援室ミニ出張講座[全3回]	山本 真由美・森川 由紀・石引 かずみ
10/1(土)	オリンピック・パラリンピックと都市計画	中原 宏
10/21(金)	健康づくりを市民と共に！	近藤 圭子
10/30(日)～2/12(日)	「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に。[全3回]	中田 亜由美
11/4(金)	札幌オリンピック・パラリンピック招致に向けて「1972年札幌オリンピックと真駒内の想い出」	酒井 正幸
11/12(土)	団地再生の最前線 ～関西の再生事例から真駒内エリアを考える～	山田 信博
11/12(土)	私の脳は大丈夫？脳卒中の予防と検査	神島 滋子
11/19(土)	認知症～みんなで一緒に考えよう～	近藤 圭子・坂東 奈穂美
12/10(土)	じょうぶな骨をつくらう！	原井 美佳・坂東 奈穂美・菊地 ひろみ
12/17(土)	初心者のための中国語講座～日本語から学ぶ中国語～	酒井 正幸・張 浦華
12/17(土)	パリの街とデザイン	安齋 利典
1/7(土)	冬のメカトロ講座～ロボットカーを走らせよう～	三谷 篤史
2/26(日)	真駒内のエアリアルノベーションを考える ～自分らしい暮らしを自分でつくるまちづくり～	籾谷 祐介
3/11(土)	こころの健康講座～あなたもゲートキーパーになりませんか？～	守村 洋
3/23(木)	ウェルネス・ハピネスを高める地域医療×まちづくり	斉藤 雅也

●平成29年度

開催日	講座名	講師
4/30(日)～6/18(日)	ロボットづくり講習会～レゴマインドストーム初級・中級講習会～[全3回]	三谷 篤史
7/23(日)	ロボットづくり講習会～競技大会(WRO2017)向け中級講習会～	
8/5(土)・8/6(日)	ロボットづくり講習会～競技大会(WRO2017)向け上級講習会～	
8/10(木)～8/12(土)	ロボットづくり講習会～競技大会(WRO2017)試走会～&WRO2017札幌大会	三谷 篤史
10/1(日)～11/12(日)	マイコンレーサー講習会～初級・中級 上級編～[全4回]	
11/19(日)	マイコンレーサー北海道大会	三谷 篤史
2/18(日)	ロボットづくり講習会～タッチセンサーロボ編～・ロボットづくり講習会～四足歩行ロボ編～	三谷 篤史
3/18(日)	ロボットづくり講習会～レゴ・マインドストーム初級編～	
7/1(土)	メカトロ教室「走れロボットカー」	三谷 篤史
7/15(土)	昆虫のデザイン～樹液酒場の常連たち～	酒井 正幸
8/4(金)～2/13(火)	まちの健康応援室ミニ出張講座[全4回]	石引 かずみ・渡邊 由加利・森川 由紀・大友 舞
9/8(金)	ナースが推奨する自然療法の活用「アロマセラピー」	猪股 千代子・大野 夏代・矢野 祐美子
10/14(土)	健康情報学 健康・医療の情報を賢く判断し選ぶために	喜多 歳子
10/14(土)	こどもの描くスケッチから「まちの未来」を考える	椎野 亜紀夫
11/20(月)	メンタルヘルス講話とストレスチェック	伊東 健太郎
12/22(金)	話を聞いてもらっていますか・話せていますか-患者として主体的に治療に参加するために-	古都 昌子
1/6(土)	冬のメカトロ講座「ロボットカーを走らせよう」	三谷 篤史
1/23(火)	話し合い上手になるために～地域の集まりを楽しむコツ～	町田 佳世子
2/6(火)	牧場の歴史ものがたり	大島 卓
2/16(金)	地域住民のこころを掴むコミュニティレストランの運営	片山 めぐみ
2/23(金)	アートの中のゲーム、ゲームの中のアート	藤木 淳
3/2(金)	パリの街とデザイン(その2)	安齋 利典
3/9(金)	Norwegian Life/ノルウェーの風景そして暮らしとデザイン	山田 良
3/9(金)	昭和のデザイン	細谷 多聞
3/17(土)	動物園をデザインする～円山動物園×札幌市立大学の12年間の歩みとこれから～	酒井 正幸・矢部 和夫・福田 大年・若林 尚樹

表2 「SCUまちの教室」授業公開 開催一覧

●平成26～29年度

開催日	授業名	講師
平成26年度：4/14(月)、4/21(月)、4/28(月)、6/2(月)、6/9(月)、6/16(月)、6/23(月)、6/30(月)	デザイン研究科「ソシオデザイン特論」	蓮見 孝
平成27年度：5/18(月)、5/25(月)、6/1(月)、6/8(月)、6/15(月)、6/22(月)、6/29(月)	デザイン研究科「デザイン特論」	
平成28年度：5/16(月)、5/23(月)、5/30(月)、6/6(月)、6/13(月)、7/25(月)		
平成29年度：5/22(月)、5/29(月)、6/5(月)、6/12(月)、6/19(月)、7/24(月)		
平成26年度：11/11(火)、11/14(金)、11/21(金)、11/25(火)、12/2(火)、12/9(火)、1/20(火)	デザイン研究科「建築環境学特論」	斉藤 雅也
平成27年度：11/17(火)、11/24(火)、12/1(火)、12/8(火)、12/15(火)、12/22(火)、1/19(火)		
平成28年度：11/22(火)、11/29(火)、12/6(火)、12/13(火)、12/20(火)、1/17(火)、1/24(火)		
平成29年度：11/28(火)、12/5(火)、12/12(火)、12/19(火)、1/9(火)、1/16(火)、1/23(火)		
平成27年度：11/27(金)	デザイン研究科「地域創生デザイン特別セミナーB」	酒井 正幸

3.2 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの談話室〉班

I 概要・目的・役割

地域市民のウェルネス（健康で、楽しく、生きがいがある状態）を創出する場を設定し、各種事業やイベントを開催することを通して市民交流活動を活性化することを目的とする。

本学が地域市民の活動活性化に中心的役割を担うためにはどのような場の創出と事業・イベントの開催が有効であるかを明らかにし、今後の活動の在り方を検討する。

II 主な活動内容

事業の目的を達成するために、次の取り組みを行った。以下、年度ごとにその取り組みをまとめる。

1. 平成25年度

本事業初年度は、たまり場・しゃべり場班として、地域市民が主体的に地域活性化を目指している先進地域の事例研究、札幌市特に南区市民が抱える課題と目指す地域の在り方に関する声を広く伺い、把握・共有するための場づくりの準備を行った。

- (1) 多世代・多セクターによる協奏の場づくりの先進事例の調査
- (2) コミュニティカフェ組織の在り方と本学の関わり方について検討と意見交換
- (3) 平成25年度公開フォーラムの第二部の企画・運営
- (4) 地域防災事業の企画・運営についての準備

これらにより、地域の安全に関すること、市民間の交流に関することが求められていることが分かった。

2. 平成26年度

初年度の取り組みにより見えて来た市民交流について、具体的に検討した。さらに市民交流の場としての図書室・談話室の整備とコミュニティカフェの在り方について試験的な取り組みを行った。また、防災に関する地域の取り組みと連携した取り組みを行った。

- (1) 札幌市からカフェ事業を請け負う事業主体とコミュニティカフェに関わる市民組織についての検討

- (2) コミュニティカフェのプレオープン準備
- (3) 市民交流の場としての図書室・談話室の在り方の検討と整備
- (4) 企業、行政の会議による地域防災に関する情報収集と取り組みに関する課題の明確化
- (5) 札幌市南区の常盤地区連合町内会事業と大学との連携による防災訓練への参加
- (6) 市民への啓蒙活動として地域防災のパネル展示と防災グッズの展示の実施

これらにより、地域力の向上をめざした市民交流の場と仕組みについて整理・確認することができた。また、図書室・談話室の整備として、書架の製作、テーブルの作成、市民からの書籍の寄付受付と登録を行い環境の整備を整えることができた。



写真1 図書室・談話室の様子

3. 平成27年度

実際に地域市民自身による交流の場づくりと取り組みの仕組みと展開方法について、継続的な市民活動の在り方についてワークショップ形式により議論を重ねた。

- (1) まこまる運営事業者の決定が平成26年度末になり、受け入れ体制が整わなかったため、「お試しシェフ」は、平成27年9月からの開始となった。
- (2) 「お試しシェフ」を3回開催した（9月、10月、12月）。
- (3) 「お試しシェフ」や平成28年度からの地域住民有志によるカフェ運営の方法を検討するために「カフェまこまるミーティング」を9回開催した。

カフェ施設の検討、市民交流イベントの検討、カフェメニューの検討、カフェ運営組織の検討を行った。地域市民によるワークショップ形式で行うことで、参加市民と具体的な活動のイメージを共有することに繋がった。

しかし、札幌市が委託したカフェ運営事業者は、事業者自身が選定した近隣でコミュニティカフェを運営している団体に運営委託をすることとしたため、前年度まで議論を積み重ねて来た市民によるカフェ運営はできなくなった。ただし、休業日に施設設備を借用して行うことができる可能性は残された。このカフェ運営委託先の団体は、人員と採算が合わないとの理由で1年で撤退することになった。

4. 平成28年度

市民交流の場としての図書室・談話室の整備と運営および市民交流のための取り組み、大学教育と研究の市民への理解を深める取り組みを中心に行うこととした。

1) 市民交流のための取り組み

- (1)「おおうプロジェクト」(真駒内盆踊り、秋川沿町、『ミュージッククリスタル25周年』(8月、11月)
- (2)「ボードゲームの世界に触れてみよう!の会」(11月)



写真2 ボードゲームの世界に触れてみよう!の会

- (3)「子どものコミュニケーション能力を育む遊びの研究」にかかる遊びのワークショップ(卒業研究)(11月)
- (4)わらしべ長者の会(11月)
- (5)第1回「まちの小さな音楽会」オカリナ・コンサート(12月)
- (6)第2回「まちの小さな音楽会」オカリナ・コンサート



写真3 第2回「まちの小さな音楽会」オカリナコンサート

ト(1月)

- (7)第3回「まちの小さな音楽会」オカリナ・コンサート(2月)

2) 大学の教育研究の市民の理解促進のための取り組み

- (1)卒業修了研究展 巡回展(6月15日～30日)
- (2)ダンボール・アート展(7月27日～8月11日)



写真4 ダンボール・アート展

- (3)デザインと看護から地域への提案展示(9月23日～10月8日)
- (4)承德医学院短期派遣研修報告会(10月1日～22日)
- (5)図書コーナー・談話室班活動報告パネル展(11月)
- (6)「ダンボールによる展示用具」展(11月)
- (7)「ダンボールによる展示用具」に乗せる展示サンプルとしての学生作品の展示(11月)

3) 市民交流のための場の運営

- (1) 図書室・談話室の運営
- (2) まこまる「ばくりっこ掲示板」の設置



写真5 まこまる「ばくりっこ掲示板」

(3) コミュニティカフェ運営に関するアドバイス

これら、市民交流の取り組みにより、ゲームや音楽活動を通じた交流を促進することができた。地域町内会や商店街との連携による自主的な市民活動への支援を行うことができた。

多くの展示によりこれまで比較的知られていなかった大学教育と研究について広く市民の理解を深めることができた。図書の無料貸し出しや活動場所の提供、市民活動の情報や物々交換希望情報の掲示により市民交流活動の場として定着することができた。

「カフェまこまる」の運営は、生涯教育系NPOが請け負うことになった。カフェのメニューや価格について相談を受けアドバイスを行なった。しかしこのNPOもスタッフの年齢や人数、採算が取れないなどの理由で本年度限りで1年で撤退することになった。

5. 平成29年度

本事業最終年度として、市民交流の場の運営と市民交流活性化のための事業を中心に取り組んだ。

1) 図書室・談話室と「ばくりっこ掲示板」の運営

2) 地域市民の交流を促す取り組み

- (1) 第4回「まちの小さな音楽会」オカリナ・ラベンダーコンサート(6月)
- (2) 真駒内大風呂敷プロジェクト おおう(9日間で延べ63名が参加)

- (3) 第5回「まちの小さな音楽会」ギター・サマーコンサート(8月)
- (4) 第1回「まこまる劇場」(8月) 本学演劇部デンコラと学外協力者により開催
- (5) 第6回「まちの小さな音楽会」オカリナ・コスモスコンサート(10月)
- (6) 子ども向けワークショップ「まちのロボットこうじょう」(卒業研究)(10月)



写真6 子ども向けワークショップ「まちのロボットこうじょう」

- (7) 「ボードゲームの会」(10月)
- (8) 第7回「まちの小さな音楽会」オカリナ・クリスマスコンサート(12月)

3) コミュニティカフェ運営に関するアドバイスの実施

カフェについては、市民有志グループによって不定期に飲食の提供を行っていた。特に相談もなく活動を見守った。

これらの活動では、図書室・談話室は、無料の図書貸し出しと市民情報掲示板と物々交換情報掲示板による情報提供を行なった。前年度に引き続き、町内会・商店街との連携による市民活動支援を行い地域と大学の連携が強化されている。ゲームによる交流と音楽サークル活動としての音楽会を実施した。毎回100名を超える市民が参加する活動として定着することができた。

III 総括

1. 市民交流活性化準備のための調査・検討

市民活動活性化のための先進地域の事例および札幌市民はどのように考えているのかを把握するための調査を実施した。これにより、大学としてどのような役割を担うことができるかに関して、適当と思われる具体策を計画することができた。

2. 市民交流のための取り組み

「おおうプロジェクト」では、地域町内会や商店街などと協働で継続して取り組む体制ができ、大学が地域市民の交流を促進する役割を担うことができた。地域の音楽家やサークル活動をしている市民との協働により開催してきた音楽会は、毎回楽しみに参加する市民が100名を超えるなど定着してきた。

本学学生卒業生による「ボードゲームの会」は多数の子供たちが楽しむものとして市民に定着してきた。また、学生研究の検証のためのワークショップは、本学の教育研究について市民に知らせる役割を担うことに繋がっていると言える。

3. 大学の教育研究の市民の理解促進のための取り組み

大学教育で行われている内容についてパネル展示を行った。特に地域連携型授業での地域活性化のための市民への提案は、今後の地域との協働活動の実践的な取り組みの可能性が高まったものである。また看護学部による健康に関する取り組みやデザイン学部による作品の展示は、本学の地域との繋がりが深い内容であり、地域に役立てられることを広く市民へ知らせることができた。

4. 市民交流のための場の運営

区民センターなどの施設と違った、より手軽に立ち寄り活動できる場としての機能が受け入れられたものと思われる。図書室・談話室は、地域市民の交流の場として市民に広く知られ活用されるようになっていく。市民により持ち寄られた書籍は、市民のゆるやかな活用が行われていて親しまれている。「ばくりっこ掲示板」は、地域市民に少しずつ知られるようになってきた。

一般施設の営利目的団体への施設貸し出し契約基準では採算が取れることが求められるため、コミュニティカフェへの適用は難しいと考えられる。

IV 今後の課題

人口減少・少子高齢化が進むなか、今後は地域力の強化がますます求められる。大学として地域コミュニティの中心的役割を果たしていかなければならない。

談話室や図書室など大学施設を市民交流の場として活用、おおうプロジェクトなど市民主体の活動への支援、音楽会やボードゲームの会など市民交流イベントの開催などの活動により、大学が地域市民の活動活性化に中心的役割を担うためにはどのような

場の創出と事業・イベントの開催と運営が有効であるかを明らかにすることができた。今後も、市民との間で築き上げて来た信頼関係を生かして、市民とともに作り上げて来た交流の場や協働的活動を維持・継続し、さらに発展させていくことが重要となる。

今後は、これまでの活動を踏まえて、地域力活性化事業を大学教育と研究活動に明確に位置付け、継続してしていく体制をつくり積極的に取り組むことが求められる。

次年度以降、求められる事項について以下にまとめる。

1) 市民の自主的な活動組織づくり

市民活動の活性化のための組織と組織間連携体制づくりおよび活動場所の確保・提供のための継続的な支援が求められる。

2) 各種市民活動の大学内担当体制づくり

これまでの市民活動支援組織を、教員個人やゼミ・研究室などが引き継ぐなどの体制づくりが求められる。

3) 市民活動・交流の場の管理運営体制づくり

市民活動・交流の場としての施設の管理・運営、受付事務を執り行う部署の明確化と担当者の確保が求められる。

4) 施設運営に掛かる予算の確保

市民活動の場の維持管理、大学教育や研究活動、市民活動支援に掛かる費用の確保が求められる。

3.3 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの先生〉班

I 概要・目的・役割

まちの先生班は、平成25年度はシニアアカデミー班として発足し、平成26年度からまちの先生班として地域住民が主体となった講座開講を目指し、講師の人材発掘などを行ってきた。平成27年度からはまちの先生運営委員会を発足させ、地域住民が主体となった講座の枠組みを札幌市南区の住民である参加者とともに検討してきた。さらに、平成28年度と平成29年度は、講座の自立した運営を目的として、まちの先生企画募集説明会（平成28年度）、サークル説明会（平成29年度）を実施した。

II 主な活動内容

1. まちの先生班の活動

1) まちの先生運営会議の実施（平成26年度）

運営会議は、平成27年度からのまちの先生開講に向けて、市民のニーズやあり方について検討するために、班メンバーの「まちの先生」の企画運営を考えるレクチャーと、住民参加のグループワークを計4回開催した（写真1）。まち班や芸術班など多方面からの課題があげられ、平成27年3月には「まちの学校プレオープニングイベント」においてプレ開講を実施した。



写真1 「まちの先生」の企画運営を考えるレクチャーとグループワーク

2) まちの先生プレ開講（平成26年度）とFD研修会の開催（平成26年度、27年度）

「まちの先生」開講前のプレイベントとして、平成26年10月に「さっぽろデザインウィーク2014」においてスペシャルイベントを開催した。

また、ファシリテーションの基本的な知識や技能を習得し、地域住民ファシリテーターの養成に関する議論を行うことを目的に、平成26年度は全学FD（Faculty Development：大学教員の教育能力を高めるための実践的方法）研修会「教員および地域住民ファシリテーター養成に向けて」、平成27年度は「まちの学校」の参考事例「シェア奥沢」について「地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり」（写真2）を開催した。



写真2 地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり

3) まちの先生の開講サポート（平成27年度から平成29年度）

平成27年度から、まちの先生講座の本格的な運営を始めた。当初は、講座開講にあたって班のメンバーが企画書の作成や日程調整などの企画準備と、当日の運営のサポートを行う体制を確立した。順次、まちの先生運営委員会に運営業務を引き継いでいった。

また、各講座の開講後には、講座に関するアンケート収集を行い集計した。平成28年度には、まちの先生の紹介リーフレット（図1 / 57ページ）を作成した。

2. まちの先生運営委員会（平成27年度から平成29年度）

1) まちの先生の仕組みに関する計画

平成27年度は、まちの先生班、COC特任教員から、運営委員会の構成員を選出し、市民構成員とともに「まちの先生」運営委員会を結成した。運営委員会は、まちの先生班が制定した会則に基づき、概ね月1回のペースで開催し、オブザーバーや講座企画者なども自由に参加できる開かれた会とした（写真3）。



写真3 「まちの先生」運営委員会

委員会では、まちの先生憲章の制定や、企画募集要領の制定、応募のあった企画内容の協議を行った。また、講座募集については、企画募集説明会やホームページ・チラシなどを通じて行い、平成28年度はまちの先生開講説明会を実施し(写真4)、平成26年度に行ったまちの先生運営会議以外の新規企画の募集と実施成果を上げた。

さらに平成29年度からは、年間を通じてまちの先生活動を実施できる仕組みとして、ポタジェ(菜園)サークル(写真5)と民謡サークル(写真6)の仕組みを整えた。

3. まちの先生の開講(平成27年度から平成29年度)



写真4 「まちの先生」開講説明会



写真5 ポタジェ(菜園)サークル



写真6 民謡サークル

表1は、開講実績である。

平成27年度は、まちの学校オープニングイベント・夏季・秋季・冬季講座合わせて全10講座を開講し、延べ161人の参加があった。平成28年度は、4月と7月の2回、「まちの先生」講座募集説明会を実施し、随時募集の企画も含め全13講座を開講し、延べ137人の参加があった。平成29年度は、連続講座・サークル活動を含め全39講座を開講し、延べ419人の参加(平成30年1月31日現在)があった。

3か年を通じて、当初はまちの学校と連動したプレ開講などで人数を伸ばし、平成28年度以降は毎回の講座に一定数の参加者があった。平成29年度にはサークル活動の開始もあり、徐々に自立した運営の足掛かりが築けたといえる。

III 総括

まちの先生班では、5か年の活動を通じて多くのまちの先生講座の開講があり、地域の担い手発掘という点から、南区の地域貢献に寄与したと考えられる。また、まちの先生運営委員会では、COC事業終了後も継続した取り組みが行われるような仕組みづくりという目標に対し、講師の発掘方法や「交流」を目的としたオリジナルな講座内容などの成果を上げることができた。

IV 今後の課題

まちの先生班では、まちの先生運営委員会という地域住民が主体となった講座の枠組みについては成果が得られた。しかし、まちの先生に参加した企画者や講師などの地域住民からもまちの学校という場所の重要性が指摘されているように、COC事業後のまちの先生の活動拠点のあり方についての課題が残った。

表1 まちの先生活動一覧(平成30年1月31日現在)

●平成26年度

開催日	時間	会場	種類	企画名・内容	講師	参加者			
						市民	学生	教職員	
7/2 水	14:50~16:20	芸術の森 キャンパス	研修会	教員および地域住民ファシリテーター養成に向けて	西上 ありさ	0	0	29	29
3/21 土	12:45~13:45	B組	講座	真駒内のまちづくりを考える	升田 大輔	26	0	3	29
3/21 土	12:45~13:30	ホームルーム	講座	今に生きる歴史・伝統の作る世界	本間 利久	7	2	2	11
3/21 土	11:00~12:00	ホームルーム	講座	マンダラ塗り絵	佐藤 千佳子	23	0	1	24
3/21 土	14:00~15:00	ホームルーム	講座	写真で遊ぼう	栗野 孝志 石川 伸一	7	2	1	10
3/21 土	14:00~15:00	B組	講座	スキナ本、教えっこしよう!	安部 尚登	24	0	1	25
参加者計						87	4	37	128

●平成27年度

開催日	時間	会場	種類	企画名・内容	講師	参加者			
						市民	学生	教職員	
4/21 火	18:30~20:00	A組	説明会	まちの先生運営会議		25	0	0	25
5/9 土	14:00~15:20	B組	プレ企画 (夏季講座)	歴史と伝統一今に活かす歴史と伝統の創る世界ー 南区の歴史的建築資産から	角 幸博	26	0	4	30
7/18 土	13:00~15:00	講堂	講座	きみも科学者になろう! 「ウーブレック〜科学者は何をする人なの?」	平松 大樹 佐藤 千佳子	6	0	0	6
9/25 金	18:30~20:00	講堂	特別講演	地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり	堀内 正弘	15	1	11	27
10/24 土	14:00~16:00	B組	講座	若さの秘訣はお口から	津金澤 秀樹	6	0	2	8
11/7 土	10:30~12:00	A組	講座	リノベーションやセルフビルドによる居場所づくり	三木 万裕子 佐藤 圭	18	6	3	27
2/20 土	10:30~12:00	B組	講座	地球環境を考えた、冬暖かく 夏涼しいお部屋づくりのポイント	佐藤 千佳子	6	0	0	6
2/27 土	13:00~13:50	B組	報告会	「まちの先生」運営委員会 成果報告会		13	0	1	14
2/27 土	13:30~15:00	ホームルーム	講座	三味線の音色によって 北海道・日本の民謡を楽しむ(第1回) いろんな年齢層の方々といっしょに 土着性のある民謡を生三味線の音色と共に唄う。	佐藤 裕子	20	4	0	24
3/4 金	14:00~16:00	B組	講座	三味線の音色によって 北海道・日本の民謡を楽しむ(第2回) いろんな年齢層の方々といっしょに 日本各地の民謡を生三味線の音色と共に唄う。	佐藤 裕子	13	0	0	13
3/5 土	10:00~12:00	講堂	講座	口からいつまでも美味しく食べるための健口体操	源間 隆雄	7	0	0	7
3/25 金	14:00~15:30	講堂	講座	春のストレッチ体操	高麗 正成	16	0	0	16
3/26 土	10:30~12:00	講堂	講座	札幌軟石のある暮らし	小原 恵	24	0	0	24
参加者計						195	11	21	227

●平成28年度

開催日	時間	会場	種類	企画名・内容	講師	参加者			
						市民	学生	教職員	
4/23 土	14:00~15:30	A組	説明会	まちの先生企画募集説明会		8	0	1	9
7/13 水	13:00~15:00	B組	講座	生三味線と共に民謡を楽しもう!	佐藤 裕子 高橋 雅代	9	0	0	9
7/16 土	9:00~10:00	B組	説明会	まちの先生企画募集説明会(秋季開講)		1	0	0	1
7/16 土	10:30~12:00	講堂	講座	自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう(第1回)	小池 みつえ	3	0	0	3
7/23 土	10:30~12:00	講堂	講座	自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう(第2回)	小池 みつえ	3	0	0	3
7/23 土	14:30~16:30	B組	講座	自分に合ったハマガキをみつけましょう!	津金澤 秀樹	3	1	2	6
7/26 火	10:30~12:00	ホームルーム	講座	大風呂敷づくりの魅力! あなたも「縫子さん」になりませんか	木野 哲也 安斎 伸也 箭内 晶子 渡辺 ひろみ 長谷川 朋美 小林 元	8	1	1	10
10/22 土	13:30~15:00	講堂	講座	菜園(ポタジェ)入門(第1回)	藤井 純子	5	0	3	8
11/12 土	13:50~15:00	図書室・談話室	講座	生活の場のデザイン	小林 元	16	14	5	35
11/19 土	10:00~12:00	A組	講座	北海道を唄おう・踊ろう・演じよう	佐藤 裕子	5	0	1	6
1/11 水	10:00~12:00	B組	講座	歯みがきが楽しくなるワクワク教室	津金澤 秀樹	10	0	1	11
1/28 土	13:00~15:00	講堂	講座	菜園(ポタジェ)入門(第2回)	藤井 純子	16	0	1	17
1/28 土	10:00~12:00	B組	講座	医学生による救命講習 みんなで学ぼうAED	青木 一毅	1	0	4	5
3/25 土	13:00~15:00	講堂	講座	菜園(ポタジェ)入門(第3回)	藤井 純子	11	0	1	12
3/25 土	10:00~12:00	講堂	講座	カーリンコン	佐賀 信義	10	0	2	12
参加者計						109	16	22	147

表1 まちの先生活動一覧(平成30年1月31日現在)[つづき]

●平成29年度

開催日	時間	会場	種類	企画名・内容	講師	参加者			
						市民	学生	教職員	
4/15 土	10:00~12:00	A組	説明会	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	7	0	3	10
4/22 土	10:30~12:00	A組	講座	観光ボランティアガイドって!	渡邊 昇	20	0	1	21
5/6 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	11	0	1	12
5/20 土	10:00~12:00	A組	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	12	0	1	13
5/23 火	10:00~12:00	A組	説明会	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	8	0	1	9
6/1 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	7	0	1	8
6/3 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	5	0	1	6
6/15 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	6	0	1	7
6/17 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	10	0	0	10
7/1 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	10	0	1	11
7/6 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	1	6
7/15 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	9	0	1	10
7/20 木	12:30~14:00	ホームルーム	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	1	6
8/1 火	10:30~12:00	ホームルーム	講座	まこまない盆踊を「おおう」大風呂敷をつくろう	小林 元	4	0	3	7
8/2 水	10:00~12:00	B組	講座	!歯みがきが楽しくなるワクワク教室!	津金澤 秀樹	14	0	1	15
8/5 土	10:00~12:00	図書室・談話室	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	10	0	1	11
8/9 水	10:00~12:00	A組	講座	指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座	竹村 真奈美	19	0	1	20
8/16 水	10:00~12:00	A組	講座	指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座	竹村 真奈美	17	0	1	18
8/19 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	9	0	1	10
9/2 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	7	0	0	7
9/14 木	12:10~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	0	5
9/16 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル(収穫祭)	藤井 純子	6	0	1	7
9/21 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	0	5
10/5 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	1	6
10/19 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	0	5
10/21 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	8	0	1	9
11/2 木	12:30~14:00	A組	講座	日本の民謡を唄って楽しもう	佐藤 裕子	5	0	1	6
11/17 金	10:00~12:00	A組	講座	指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座	竹村 真奈美	11	0	1	12
11/18 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	7	0	1	8
11/21 火	10:00~12:00	A組	講座	指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座	竹村 真奈美	12	0	1	13
11/25 土	13:00~14:30	A組/講堂	講座	松浦武四郎の軌跡と地図	打田 元輝	38	0	1	39
11/25 土	10:00~11:30	講堂	講座	カーリンコンをやってみよう	佐賀 信義	20	0	1	21
12/9 土	10:00~11:30	講堂	講座	カーリンコンをやってみよう	佐賀 信義	21	0	0	21
1/10 水	10:00~12:00	B組	講座	おいしく食べて!楽しく歯みがき!	津金澤 秀樹	20	0	2	22
1/20 土	10:00~12:00	ホームルーム	講座	菜園(ポタジェ)サークル	藤井 純子	8	0	1	9
1/27 土	10:00~11:30	講堂	講座	カーリンコンをやってみよう	佐賀 信義	14	0	0	14
2/24 土	10:00~11:30	講堂	講座	カーリンコンをやってみよう	佐賀 信義				
3/2 金	10:00~12:00	A組	講座	指で描くパステル和(なごみ)アート講座	竹村 真奈美				
3/24 土	10:00~11:30	講堂	講座	カーリンコンをやってみよう	佐賀 信義				
参加者計						385	0	34	419



図1 「まちの先生」のリーフレット

3.4 学び舎推進チーム〈まちの健康応援室〉班

I 概要・目的・役割

「まちの健康応援室」は、COC (Center of Community) 事業の一環として、生涯にわたり健康で楽しく生きがいもてる状態＝ウェルネス支援に向けて取り組むことを目的として、地域の方々が気軽に立ち寄り、健康や暮らし、介護の相談ができる場所として、平成27年9月に札幌市南区真駒内地区のCOCキャンパスに誕生した。看護学部をもつ本学の専門性を活かし、地域在住の保健師・看護師などの市民ボランティアと学生、大学教員が協働して、札幌市で最も高齢化が進む南区を中心に、健康支援を通じた社会貢献活動を行っている。

「まちの健康応援室」は、保健師・看護師などの資格をもつ市民ボランティアと学生、教員が協力して健康支援に取り組む活動形態を特色としている。教員は、看護学部6名、デザイン学部2名の8名で班を構成し、この他に看護学部の助産学専攻科教員が教員ボランティアとして参加している。教員と市民ボランティアが混合で活動体制を組む。市民ボランティアは、保健師、看護師、薬剤師、管理栄養士、健康運動指導士の資格を持つ専門職である。年齢層は、20歳代から70歳代まで幅広い。現職者からリタイアされた方まで多様であるが、自身の専門性を活かした社会貢献活動に関心の高い集団である。登録者数は平成27年度15名、平成28年度15名、平成29年現在19名となっている。交通費などの支給はないが、開室以降継続して活動するボランティアも多い。

「まちの健康応援室」の役割は、地域の方たちが気軽に立ち寄って健康や暮らしの相談ができる場所を作り、行政や地域包括支援センター、町内会等と連携を図りながら、地域の保健・介護予防のネットワークのひとつとして機能するとともに、学部・大学院の教育・研究フィールドを提供することである。

学生は、学生ボランティアがアウトリーチ活動に参加する他、自由科目「地域プロジェクトⅠ」「地域プロジェクトⅡ」を履修する1年生と2年生が参加し、ボランティアや健康応援室を訪れる市民との交流を通して学びの場となっている。また、平成29年度は、「まちの健康応援室」がサポートするCOC STUDENT PLAZA 学生主催の「ふまねっと運動サークル」[※]が学部学生の卒業研究のフィールドとして

活用された。

※)「ふまねっと運動」：NPO法人地域健康づくり支援会ワンツースリー(現 認定NPO法人ふまねっと)により開発された、全身のバランスや認知機能を向上させることを目的とした運動学習プログラムである。50cm四方のマスキュードでできた網を床に敷き、マスキュードを利用したステップを間違えないように歩く運動で、道内外300以上の施設や病院で取り入れられている。HP：<http://www.1to3.jp/>



図1 こんにちは「まちの健康応援室」ですポスター



図2 「まちの健康応援室」開室ポスター

II 主な活動内容

「まちの健康応援室」の活動は、COCキャンパスの一室を専用スペースとした健康チェック、健康相談に加え、地域の健康イベントに出向いてアウトリーチ活動、助産学専攻科教員ボランティアによる母子健康相談、COC STUDENT PLAZA 学生主催の「ふまねっと運動サークル」活動サポート等である。相談活動やアウトリーチ活動には学生を積極的に受け入れ、学生が「まちの健康応援室」への参加を通じて市民の健康意識の理解や自身のコミュニケーションスキルを磨く機会となっている。

1. COCキャンパスでの相談活動

火曜日から土曜日の13:00～16:00(不定期開室、祝日・年末年始除く)で活動した。1か月につき7日～10日間開室し、毎月「開室カレンダー」を作成して来室者やイベント時に参加者に配布し周知した。「まちの健康応援室」には、血圧計、骨密度測定器、体組成計、握力計、足指力測定器、身長計を常備し、来室者の健康チェックを行うと共に、健康や介護の相談に応じている。また、相談内容に応じ、受診

に関する情報提供、行政、地域包括支援センターへの紹介を行った。

来室者の推移は図3の通りである。平成27年10月の開室以降、約1,000名の来室者があった。ひと月の開室日数は平均10.6日、ひと月の来室者数は平均36.5名、1回の活動日につき平均来室者数は3.4名である。来室者の約10%は継続して定期的に来室している。

平成27年10月の開室時から平成28年12月まで15か月間に来所した相談記録323名分について、利用者の基本属性、利用目的、健康状態について分析した結果、来室者の平均年齢は60.2±17.3歳で、うち、母子を含む成人の来室者が46.9%、65歳から74歳までの前期高齢者36.5%、後期高齢者が16.7%であった。来室者の71.4%が女性で、男性は27%であった。居住区は南区内在が87.9%であった。利用目的は、健康チェック、健康相談、治療・受診の相談、子育て相談などであった。日中の開室であることから、高齢者の利用が全体の半数以上を占めていたが、子育て中の母親等の利用もあり、幅広い年齢層に利用されていた。測定結果から、健康的な生活を送り、自身の健康に関心を持っている人が多く利用していると考えられたが、足指力では男女差があり、転倒予防を中心とした介護予防の取り組みの必要性が示唆された。

2. 地域の健康イベントでのアウトリーチ活動

南区は10の地区があり、各地区の主催者または行政からの依頼により、地域の健康イベントに出向いて健康応援室の機材を持参して出張活動を行った。この活動には学生もスタッフとして参加した。平成



写真1 健康相談活動の様子

27年度は出張活動を4回(まこまる主催のイベントを含む)、平成28年度は、出張活動を6回、公開講座を3回実施した。平成29年度は、出張活動を7回、公開講座を1回実施した。目に見える地域貢献活動を展開し、「まちの健康応援室」を広報する機会とするとともに、学生が健康支援活動を通して地域の健康づくりに関心を高める機会とした。

3. 助産学専攻科教員ボランティアによる母子相談

COCキャンパスに隣接する南区保育・子育て支援センター「ちあふる・みなみ」を利用する母親からの保育や乳幼児の健康相談ニーズへの対応として、本学助産学専攻科の教員ボランティアによる「まちの健康応援室」活動のうち、隔月でミニ出張として「ちあふる・みなみ」に出向いて講話と相談活動を実施した。テーマは「季節の感染症」「母乳育児関連相談」「母親のメンタルヘルス」「乳歯のこと」など、医療的な内容に対応した。参加者は4名～13名で、専門職に相談できる安心感は高く、ミニ出張以外の「まちの健康応援室」の助産師担当の日に相談に来室す

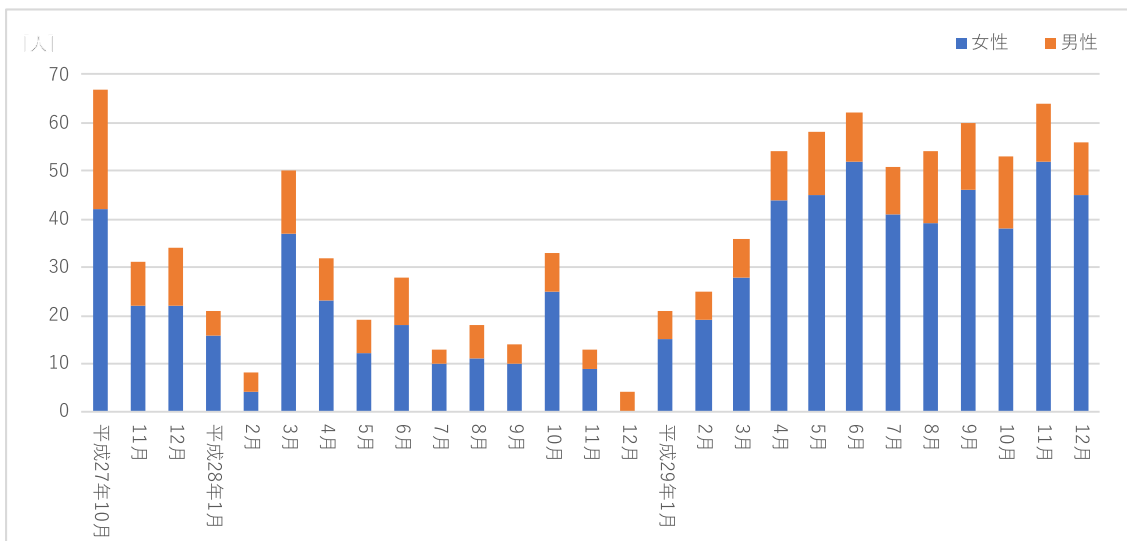


図3 「まちの健康応援室」来室者数の推移

表1 アウトリーチ活動状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
出張活動	9月30日(水) 「まちの健康応援室」オープン 「みんなでみに区る健康まつり2015」	7月23日(土) 「まこまない夏フェスタ&災害時に備えて」	7月8日(土) 「常盤地区スマイルクラブ」
	1月27日(水) 「藤野地区福まち研修会」	8月26日(金) 「もりの仲間のさわやかクラブ ハツラツ介護予防」	7月28日(金) 「もりの仲間のさわやかクラブ 介護予防一健康測定会」
	2月27日(土) 「まこ×まち2016」	9月29日(木) 「みんなでみに区る健康まつり2016」	9月27日(水) 「みんなでみに区る健康まつり2017」
	3月2日(水) 「藻岩地区健康まつりふれあい交流会」	10月19日(水) 「藻岩下元気ハツラツ健康まつり」	10月14日(土) 「きて！みて！まこまる 2017」
		11月12日(土) 「まこ×まち2016 Vol.2」	10月19日(木) 「石山地区生き生き健康教室」
		3月8日(水) 「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」	10月25日(水) 「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」
公開講座		11月20日(月) 「健康なまち定山溪『まちけん』」	
		9月8日(木) 「ファーストエイド講座」	11月20日(月) 「メンタルヘルスマチ強とストレスチェック」
		11月19日(土) 「認知症 ～みんなで一緒に考えよう～」	
	12月10日(土) 「じょうぶな骨をつくろう！」		



写真2 出張健康応援室の様子

る母子がおり、子育て世代の利用にもつながった。

4. COC STUDENT PLAZA 学生主催

「ふまねっと運動サークル」活動支援

COC STUDENT PLAZAで活動する看護学部学生が健康づくりを通して高齢者の健康維持と若い世代との新たなコミュニケーション創出につなげることを目的に「ふまねっと運動サークル」を立ち上げた。平成28年9月に体験会を行い、以後、月1回定期的に活動を継続している。学生は看護学部の3年生と4年生7名が、南区のふまねっとサポーターの支援を受けて、企画から実施まで自主的に運営している。自由科目の「地域プロジェクトⅠ」「地域プロジェクトⅡ」を履修する学生も参加し、活動を通して高齢者とのコミュニケーションを図る機会となった。「まちの健康応援室」は、この活動の運営面に関するアドバイスと、安全面の観点から支援している。毎回13～14名の市民が参加し、ふまねっと運動を通じ

表2 ちあふる・みなみへのミニ出張活動状況

平成28年度	平成29年度
6月10日(金) 「赤ちゃんのスキンケア」	4月25日(火) 「ママのからだと心の声-聴いてますか?伝えてますか?」
8月2日(火) 「母乳育児の悩み解決します!」	6月15日(木) 「夏に多い赤ちゃんの感染症」
10月6日(木) 「すてきなあなたへ」	8月4日(金) 「母乳のお話」
12月21日(水) 「冬に多い赤ちゃんの感染症とその予防」	10月5日(木) 「ママのからだと心の声-聴いてますか?伝えてますか?」
2月14日(火) 「歯のおはなし」	12月8日(金) 「冬の感染症とその予防」
	2月13日(火) 「冬季におけるこどものスキンケア」



写真3 ちあふる・みなみ

て看護学生との世代間交流を楽しんでいる。学生と高齢者との交流は、直接的な運動の効果もさることながら、高齢者の気持ちにも肯定的な影響を与え、口コミで参加者が増えている状況にある。

III 総括

当初、「まちの健康応援室」はCOC事業計画には盛り込まれていなかったものである。COC事業計画が採択され、事業開始後に本学学長の意向を受けて、平成26年にワーキングチームが発足し、先行事例を

参考に活動の枠組みを作り、準備を重ねて平成27年9月から活動を開始した。COC事業計画に達成目標はなく、その意味では自由に活動を展開することができたといえる。オープン以降約1000名の市民が来室し、各地区の健康づくり事業からの出張依頼も多く寄せられるようになった。「まちの健康応援室」の活動が周知され、地域に根ざした活動になりつつある。

「まちの健康応援室」の活動の特色のひとつに、有資格の市民ボランティアの参画がある。有資格ボランティアは「まちの健康応援室」の活動の要であり、ボランティアの専門性や個性を発揮した助言や対応は、「まちの健康応援室」の活動を特徴づける要因のひとつである。平成29年度の介護保険制度改正において、地域包括ケアシステムにおける住民の健康づくり、介護予防に対するボランティアの活用促進が盛り込まれた。医療系の資格をもつ市民ボランティアが、専門職のスキルと知識を活かして地域住民の健康支援活動を行うことは、地域包括ケアシステムにおける新しい互助の形であるといえるのではないだろうか。また、地域貢献の気持ちをもつ有資格者を、大学の組織力、教育力を活用してボランティアとして活躍してもらうことにより、地域と大学の結び付きがより強くなることも期待できるのではないだろうか。

大学が「まちの健康応援室」を実施するには、行政サービスとの違いを自覚し、大学が行うことの意味をより際立たせる必要がある。「まちの健康応援室」の活動を通じて、南区の行政や町内会、地域包括支



図4 ふまねっとチラシ

援センター、健康づくりの自主組織の方達と協力関係を作ることができた。この関係を基盤として、大学・大学院の教育・研究につながる関係性をさらに発展させ、地域貢献と教育研究の良い循環が進んでいくことが期待できる。健康づくりを軸に地域住民が集う場は、生活経験が少ないといわれる若い学生達が、多世代交流を経験し、コミュニケーションスキルを磨く貴重な機会でもある。教育・研究のフィールドとして、「まちの健康応援室」を通じて培った地域との関係性を活かし、学生の積極的な活用を進めることが必要であろう。

IV 今後の課題

今後の課題を以下の4点に整理する。

- (1)COC事業終了に伴い、「まちの健康応援室」は大学組織に位置付けて継続することとなった。新しい組織において、地域のニーズを反映した健康支援活動を継続するために、活動内容の精査、持続可能な活動体制づくりを進める必要がある。
- (2)専門職として経験を重ねてきた市民ボランティアは、学習への意識が高く、調査研究の一環として行ったインタビューにおいて、学習へのニーズが出されていた。これまでも資料や書籍の整備、年2回のボランティアミーティングで講義や事例検討会を行ってきたが、学習環境をさらに整えていく必要があると思われる。
- (3)現在は市民ボランティアや教員が来室者に対して行う個別支援を軸に活動しているが、教育研究機関である大学が実施することの目的を明確化する必要がある。健康教室など集団に対する活動形態や、来室者への健康指導を授業の一環として行う可能性を検討し、大学・大学院の教育・研究フィールドとしての位置づけの強化、学部教育と連動した活動について積極的に検討する必要がある。
- (4)当面、COCキャンパスを拠点に活動を継続するが、他区への波及についても検討を要する。地域の健康づくり、ウェルネス支援は南区以外にも必要とされており、大学の教育力や組織力、発信力を活かした地域とのネットワークづくり地域貢献活動が求められている。



写真4 ふまねっと運動サークル活動の様子

4. 広報企画推進チーム

I 概要・目的・役割

本班は、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的としたチームである。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的として活動を行うことが役割であった。

II 主な活動内容

1. コミュニケーションメディアの作成

COC事業は、地域住民の皆様や町内会組織、札幌市など学外の組織との連携が中心となる活動であり、本事業の内容を分かりやすく伝達するコミュニケーションメディア無しには、活動を広げることが難しいことが容易に予想された。そこで本チームでは事業開始当初となる平成25年度に「事業概要紹介パンフレット」「専用封筒」を、学内スタッフが対外的に本事業を説明しやすくなることにポイントをおいて作成した。

平成26年度には本COC事業の内容を「札幌市立大学の概要」「COC事業とは?」「本学のCOC事業概要」「COCカリキュラムの特徴」からなる事業説明プレゼンテーション用スライド(全46ページ)を作成し、学内外への周知に活用した。また、平成24年に廃校した「真駒内緑小学校」に本学COCキャンパスを平成27年5月より設置し、地域の皆様、札幌市とともに活動する計画となったため、COCキャンパスの基本的な考え方を示すパンフレットを作成した。加えて「Sapporo Design Week 2014」「映画祭フェ

スティバル」の冊子への広告紙面、各種イベントへの本学COC事業としてのブース出展も効果的なコミュニケーション手段と位置づけその際に必要となる横断幕の作成を行った。

平成27年度には、札幌市の「広報さっぽろ」を通じた情報発信が平成26年度末からの札幌市南区との調整の結果可能となった。幅110mm×高さ80mm程度のスペースに定期的に掲載することが可能となり、その基本グラフィックやフォーマットの整備を印刷業者と共に行った。また、平成27年9月30日に開室した「まちの健康応援室」の広報媒体を制作した。具体的には、1. 開室告知チラシ/2. 開室カレンダーの書式作成/3. 出張健康相談時の幟旗のデザイン/4. 教室名表示サインの設置、を行った。

2. ICTを活用した広報活動

本事業採択後、速やかに「広報Webサイト(<http://coc.scu.ac.jp>)」を構築しその運用を開始した。学外の閲覧者が本事業に係ることの補助を第一の目的とし、イベントの告知を中核とするページ構成とした。情報発信に関してはその鮮度が重要であり、本事業を推進するにあたって構成された学内の10弱の組織が個別に情報発信できる仕組みを構築したが、実際の運用では担当者のICT(Information & Communication Technology)スキルの問題もあり事務局が情報発信を代行することになったため、Webの情報発信の承認プロセスを検討した。また、



図1 Webサイト上のイベントカレンダー

本学教員の顔が閲覧者に見えることが地域との繋がりや醸成に影響すると考え、ほぼ全教員の顔写真の公開を行った。

また、平成27年度には、COCキャンパスが稼働を開始し、本事業の活動も具体的となったため、活動の実態に合わせたWebサイトの構造の再構築を行った。なお平成28年度には予算削減の影響を受け、事業期間後半には本学学内のWebサーバーに移植を行い、低コストでのサイト運営を行う試みと、映像による本COC事業の活動報告ページ (<https://www.youtube.com/user/scucoc>) の制作も行った。

図1は本事業で実施したイベント等をしめすカレンダーであり、オレンジ色でハイライトされた日がイベント開催日である。アーカイブ的意味合いも兼ねたWebサイトになったものと評価する。

最後に、平成27年11月より、COCキャンパスで実施されたイベントでのアンケートに「今後の情報配信を希望する」と回答した方々を対象に、月1回の「メールマガジン」の配信を行った。主に当該月に実施されるイベントの告知を行い、リピーターの確保と前述の広報Webサイトへの誘導を目的としたものであった。

3. 映像・静止画による記録/活かし方の検討

本映像による記録は、「1. 学生への教育を目的とした教材」としての記録に加えて、「2. 本事業の実施報告」を目的とした記録といった2大方針を掲げ実施した。また、本事業では、地域の皆様をはじめ、学外者と本学学生・教職員の交流の機会がその活動の核であった。この交流活動は教材作成の観点、事業の実施報告の観点から記録を行うこととなったが、被写体となる方々の肖像権に関する問題が想定された。これは、本学全体の広報に関するポリシーに影響することから、本チームで原案作成、大学の広報室での協議・検討を経て、全学での共通ポリシーとして確定するプロセスをとった。広報に関するポリシー確定後は、これに従っての記録活動を行った。

「1. 学生への教育を目的とした教材」としての位置づけの活用では、先輩の活動を後輩が映像を通して学ぶ【閲覧教材】的な活用を行うことを目的に「YouTube 札幌市立大学 COCチャンネル」での公開を行い、活用の利便性を高めた。加えて、前述の撮影された映像を編集する、といった【編集素材の教材】としての活用も行った。具体的には、尺の長い素材的な映像を短くまとめるといった編集作業を学生に行ってもらい、それを前述の「YouTube 札幌市立大



図2 COC事業のまとめ映像画面

学COCチャンネル」にて公開する実践的教育的活動であった。

「2. 本事業の実施報告」に関しては、平成28年度から企画をすすめ本事業最終年度の平成29年度の最終成果報告会での利用とその他の活用を見越した5年間のCOC事業のまとめ映像を、ロングバージョン：25分30秒(予定)、ショートバージョン：約5分(予定)にて制作した(本報告書入稿後、完成予定)。

4. 催事イベントの企画・運営

本事業の事業内容の紹介や成果報告、具体的な地域貢献活動といった、催事イベントの企画運営を行った。

平成25年度には、平成26年3月8日に後に本学COCキャンパスとなる旧真駒内緑小学校で実施した「H25年度公開フォーラム」を運営した。

平成26年度には、平成26年10月23日に南区民センターで実施した「みんなでみに区る健康まつり2014」、同10月25日に札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)憩いの空間WEST会場で実施した「札幌市立大学紹介パネル」「COC事業紹介パネル」「スタートアップ演習成果発表パネル」の展示と、チ・カ・ホ北2条交差点広場(東)でのイベント「まちなな先生inチ・カ・ホ」の運営、同11月18日に札幌市立大学、札幌市、南区地区連合町内会、南区民協議会の代表者が一堂に会し、これまでの取組みや今後の計画について報告した平成26年度第1回COC連絡会議の運営、平成27年3月21日に旧真駒内緑小学校にて【まこまる】(旧真駒内緑小学校)のオープニングに合わせた本学COCキャンパスの開校式、平成26年度COC成果報告会、および、学び舎企画推進チーム(まちなな教室、まちなな談話室、まちなな先生)との連携によるイベント「まちなな学校プレオープニングイベントおよび成果報告会」を運営した。

平成27年度には、平成27年5月9日より本学COCキャンパス「まちなな学校」がオープンしたが、こ

のオープンに合わせたオープニングイベント「まちの学校にあつまれ！」の企画運営を、同9月30日には札幌市南区のイベントである「みんなでみに区る健康まつり2015」の午後の部として、本学COCキャンパスにて実施した「まちの健康応援室開室イベント」の企画運営を、平成28年2月27日には本COC事業の平成27年度の成果報告会と位置づけた「まちの学校でまなぼう！」の企画運営を行った。

平成28年度には、平成28年11月12日にCOCキャンパスにて実施された「きて！みて！まこまるまこ×まち2016Vol.2」の企画運営を、平成29年2月18日には本COC事業の平成28年度の成果報告会と位置づけた「みんなの発表会」の企画運営を行った。

平成29年度には、平成29年10月14日にCOCキャンパスにて実施された「きて！みて！まこまる2017」の企画運営を、また、本COC事業5年間のまとめとして、ご協力頂いた札幌市南区を中心とした方々を対象とした、平成30年2月17日実施予定の最終成果報告会を企画した。

5. COCキャンパスの整備

平成26年度には、平成27年5月より旧真駒内緑小学校に本学COCキャンパスが開校予定となったため、平成27年3月21日に札幌市との共同によるプレ開校イベントを実施することとなった。これに合わせて、同キャンパス内の教室名表示・誘導看板・他の施設との統一感等を加味したサイン計画を検討し、スタッフの手作りによる試験的なサインを設置した。この試験的なサインにて1年間の運用を行い、「Wi-Fi利用に関する利用掲示」といった具体的な掲示物も含め、平成27年度末には正式な教室名表示を取り付ける等のプロセスを経て、館内サインの整備を行った。また、本学のCOCキャンパスへのアクセスが容易な中央入口に、入口サインを設置した。このサインは黒板塗料で塗装したものとなっており、事業者名、開館時間の変更があった場合に適宜修正可能な仕様とした。

6. 各種成果報告用パネルの作成

各種イベント等での成果報告用のパネルを作成した。

「1年次のスタートアップ演習（デザインと看護の連携と大学導入教育に加え、地域を知ることと目的とした演習授業）」と「3年次の学部連携演習（実際の共同を行うデザインと看護の連携に加え、地域の

課題解決方法を知ることと目的とした演習授業）」は、本COC事業の教育改革の対象となった科目であるが、両演習授業ともに10チームが成果を構築するため、全ての成果を取りまとめた統合パネルを毎年度作成した。

また、国立大学法人高知大学が主催する、全国のCOC事業に関するシンポジウム「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～」に本学のCOC事業内容の紹介を目的としたポスター発表用A0ポスターを作成した。

7. まちの学校新聞の発行

平成27年度より、南区住民の皆様にもまちの学校の活動を周知する（回覧板での配布）、町内会連合会長への活動の報告を行う（10部の郵送or訪問配布）、文部科学省への報告を行う（札幌市の東京事務所から報告を数部の郵送にて実施）といった目的（方法）で、COCキャンパスでの活動を周知する「まちの学校新聞」を企画・発行した。平成27年8月の第1号～平成30年1月の第7号を発行し、最終報告として平成30年度末に第8号を発行予定とした。

8. 報告書の作成

図3 「まちの学校新聞 第6号」（平成29年9月）



図4 「まちの学校新聞 第7号」(平成30年1月)

本事業は5年間の事業であったが、地域の住民の皆様、関係機関に広く周知する必要があるとし、年度内での関係各所への配布を目的とした報告書を作成した。初年度の平成25年度を「01号」としそれ以降を「02号」～「05号」とした。なお、最終の「05号」に関しては、「平成29年度成果報告および平成25年～29年度(5年間)のあゆみ」として平成29年度の活動報告に加え、過去5年間の事業報告も含めた構成とした。

III 総括

平成25年度には、本事業の記録・広報のあり方を検討し、具体的な運用の仕組みを構築した。平成26年度には、平成25年度に構築した運用の仕組みに基づき、本事業の活動の実際の記録、ホームページや印刷物を用いた広報(情報発信)を行った。平成27年度は、本事業の中心的活动の場となる「COCキャンパス」の運営が開始し、キャンパス内のサイン作成をはじめとした場の整備活動と札幌市と連携した広報のあり方を検討した。平成28年度はCOCキャンパスを中心に行われる活動の広報を、いかに低コストで実現するかの試行錯誤を行った。平成29年度



図5 最終報告書表紙

には、COC事業終了を見据え、本事業を後世に伝えるためのまとめのあり方を模索した。

以上5年間にわたる本事業の広報は、本事業そのものの進展に合わせ、流動的な対応を迫られるものであったが、一定の成果を得られたものと評価する。

IV 今後の課題

以上のように本チームでは、5年間にわたりCOC事業の広報活動を行ってきた。予算削減の影響を受け、本チームの広報活動では、少なからず低予算での広報活動のあり方を模索した経緯があったが、本事業の目的である「地域の活性に貢献する人材を育成する」観点から言えば、「広報予算を保有する組織」として実施する広報ではなく、極端に言えば「予算の無い個人」ができる広報のあり方を検討することが重要との認識に至った。地域の一般の住民(予算の無い個人)が地域創生活動を行うにあたっての広報活動のあり方に関する方法論を、大学という研究機関が構築することが重要と考えられる。

5. COC 特任教員

I 概要・目的・役割

本事業全体を円滑に推進させることを目的に、本学の教職員や学生、札幌市各課、各地域関係者などと連絡・調整を行うとともに、事業に関連する様々な団体や多世代、多セクターとのネットワークを形成するコーディネーターとしての役割を担う。必要に応じて、各チーム・班が担う教育・研究・社会貢献活動に対する支援を行いながら、「まちの学校」を中心とした事業の企画・運営にも携わる。学生に対しては主体的な社会貢献活動を支援する。

なお、COC 特任教員は、平成26年度～平成27年度は2名体制、平成25年度・平成28年度～平成29年度は1名体制であった。

II 主な活動内容

1. 教育改革 (COC カリキュラム) の推進

- (1) 「スタートアップ演習」においては、各教員、札幌市南区地域振興課、南区各区のまちづくりセンター等との連絡・調整を行い、演習の準備・運営を行った。平成27年度からは毎年他の専任教員とともにグループを担当し、学生の指導も行った。
- (2) 「学部連携演習」においては、各教員、札幌市南区地域振興課、南区各区のまちづくりセンター等との連絡・調整を行い、演習の準備や運営を行った。平成26年度からは毎年他の専任教員とともにグループを担当し、学生の指導を行った。
- (3) 「地域プロジェクト」においては、平成28年度に「まこ×まち2016 Vol.2」、平成29年度に「きて！みて！まこまる2017」をそれぞれテーマとして授業を担当し、学生指導や地域の関連団体との連絡・調整を行った。

2. ウェルネスサイエンス研究の推進

- (1) 「札幌市南区在住の65歳以上の高齢者の健康に関するニーズ調査」の結果報告会の準備・運営支援を行った。
- (2) 本事業に関する研究基盤の整備、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させるための連絡・調整を行った。
- (3) COC 共同研究の採択を受け、「札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化」(平成26年

度)、「廃校活用を目的とした空間デザイン手法に関する研究」(平成27年度)の研究課題に取り組んだ。

- (4) 平成29年10月14日に開催した「きて！みて！まこまる2017」において、平成28年度COC 共同研究に採択された研究課題展示の企画・実施の支援を行った。

3. SCU まちの教室公開講座の企画・運営の推進

- (1) 公開講座の企画・運営を推進させるための連絡・調整を行った。また、まちの学校の賑わい創出および広報の一環として、下記の公開講座の企画・運営・実施、チラシ制作、地域団体との連絡・調整を行った。

- ・「地域の人々と学生が共に学び合う"学び舎"について」(平成26年3月24日)
- ・「真駒内のまちづくりを考える - ヨーロッパの先進事例を通して - 」(平成27年2月13日)
- ・「手で描く、手で創るデザイン」(平成28年1月30日)
- ・「コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える」(平成28年3月5、26日)」



写真1 コミュニティ研究からみんなの暮らしを考える

- ・「エドウィン・ダンと真駒内のまち」(平成28年6月4日、11日、25日)
 - ・「真駒内のエリアリノベーションを考える—自分らしい暮らしを自分でつくるまちづくり」(平成29年2月26日)
 - ・「Evening Lectures - 欧州の暮らしとデザイン」(平成30年3月2日、9日)
- (2) 本学学長による大学院デザイン研究科の科目「ソシオデザイン特論」(平成26年度)、「デザイン特

論」(平成27年度～29年度)の授業公開実施に向けて、会場の確保(平成26年度は区民センターおよび地域のコミュニティカフェで実施)、企画・運営支援、チラシの制作を行った。

4. SCUまちな話室の企画・運営の推進

1)「緑小のこれからを考えるワークショップ」

平成26年3月8日に開催した公開フォーラムの第二部として、学生のパネル展示、「緑小のこれからを考えるワークショップ 春を咲かせよう」の企画・準備・運営を行った。

2) コミュニティカフェ

食を通して地域住民が交流できる場を開設するために、平成26年度には、話し合いをする場としてのコミュニティカフェ座談会の企画・運営・準備の支援を行った。また、コミュニティカフェで使用するテーブルを住民参加のワークショップによって制作した。平成27年度には、まこまる内にある「カフェまこまる」を活用した市民や学生が主体となって行う市民交流企画「お試しシェフ」の実施において、各関係者との連絡・調整を行った。また、それらの企画の場である「カフェミーティング」に参加し、協議・運営支援を行った。

3) 地域防災事業

平成26年度、防災をテーマに地域住民が交流できる場を開設するために、行政や企業の防災に関する調査、情報収集を行った。定山溪地区防災訓練に参加し、訓練の体験を行った。

4)「さっぽろハロウィン」

札幌の中心地をメイン会場として実施されたイベント「さっぽろハロウィン」と連携し、「まちな学校」において、市民交流イベント「Trick or Escape」(平成27年10月31日)を実施するにあたって、さっぽろハロウィン実行委員会と本学教員との連絡・調整、広報支援を行った。

5)「まこまるぱくりっこ掲示板」

掲示板の制作(平成28年2月)において、本学教員と学生とのマッチングや掲示板・広報チラシ制作のデザイン面における支援を行った。

6)「真駒内大風呂敷プロジェクト おおう」

平成28年度から、まちな学校に市民交流の場を創出することを目的に、真駒内団地商店街振興会と共

催で地域の盆踊で使用する櫓をおおう大風呂敷を制作するプロジェクトの企画・運営、および真駒内団地商店街振興会の担当者との連絡・調整を行った。

7)「わらしべ長者の会」

ものの交換を通して市民交流を図るイベント(平成28年11月19日)を、市民活動団体「まち班」と共催するにあたって、担当者との連絡・調整、および企画支援を行った。

8)「スタートアップ演習 展示会」

平成28、29年度に実施したスタートアップ演習の成果パネルの展示会の企画支援や各関係者との連絡・調整を行った。

9)「学部連携演習 展示会」

まちな学校を開設した平成27年度以降、毎年実施している学部連携演習の成果パネルの展示会の企画支援や各関係者との連絡・調整を行った。

5. SCUまちな先生の企画・運営の推進

1)「まちな先生大集合!」「まちな先生運営会議」

地域住民とともにまちな先生のテーマや運営について考えるワークショップ(平成26年度に4回実施)の企画・実施の支援を行った。ワークショップの1グループのファシリテートを担当し、運営会議終了後にはそのグループが母体となった市民活動団体「まち班」を組織し、自立的に活動できるよう支援した。

2)「SCUまちな先生 in チ・カ・ホ」

札幌デザインウィーク2014で開催した「SCUまちな先生 in チ・カ・ホ」(平成26年10月25日)の企画・準備・運営支援を行った。また、札幌デザインウィーク実行委員会に出席し、関係者との調整を行った。

3)「まちな先生運営委員会」

平成27年4月に、まちな先生の企画や運営の仕組みを検討するために、「まちな先生運営委員会」を地域住民と本学教員で組織し、運営委員として参加した。平成27年度は、まちな先生の企画募集、しくみの検討、応募された企画についての協議を行った。平成28年度は、前年度の内容に加え、まちな先生企画募集説明会(春季、秋季の2回)の企画・運営、登壇者との連絡・調整を行った。平成29年度は、まちな先生の企画募集、応募された企画についての協議に加え、COC事業終了後に各企画者が継続的に活動できるよう支援した。

4) まちの先生の企画にあたり、学内外の関係者の連絡・調整、および企画支援を行った

- ・「リノベーションやセルフビルドによる居場所づくり」(平成27年11月7日)
- ・「大風呂敷づくりの魅力!あなたも「縫子さん」になりませんか?」(平成28年7月26日)
- ・「生活の場のデザイン」(平成28年11月12日)
- ・「医学生による救命講習 みんなで学ぼう AED」(平成29年1月28日)
- ・「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(平成28年11月19日)
- ・「菜園(ポタジェ)がある暮らし」(平成28年10月22日、平成29年1月28日、3月25日)
- ・「ポタジェサークル」(平成29年度・年間14回)
- ・「観光ボランティアガイドって!」(平成29年4月22日)
- ・「まこまない盆踊を「おおう」大風呂敷をつくろう」(平成29年8月1日)
- ・「指で描くパステル和(なごみ)アートはじめて講座」(平成29年8月9日、16日)
- ・「松浦武四郎の軌跡と地図」(平成29年11月25日)
- ・「カーリンコンをやってみよう」(平成29年11月25日)

6. SCUまちの健康応援室の企画・運営の推進

- (1)「まちの健康応援室」開室に向けて、「まちの健康応援室」の整備を行った。
- (2)札幌市南区の「みんなでみに区健康まつり 2015」(平成27年9月30日)に合わせて、「まちの健康応援室」のオープニングイベントを開催し、関係者との調整やイベント全体の場のデザインを行った。平成28・29年度にも引き続き参画し、南区保健福祉部担当者、および学内教員との連絡・調整、およびイベント当日の場のデザインを行った。
- (3)平成28年度は、アウトリーチ活動を積極的に推進するために、まちの健康応援室で作成した資料を活用した各関連機関への周知、および出張企画実施に向けた連絡・調整を行った。その結果、「定期的なミニ出張講座」、「ファーストエイド研修」、「もりの仲間のさわやかクラブ ハツラツ介護予防」、「認知症サポーター養成講座」の実施につながった。また、「まこまる」で実施したイベント「夏フェスタ&災害時に備えて」にまちの健康応援室として参加するにあたり、連絡・調整、および当日の運営補助を行った。平成29年度は、南区保健福祉部との連絡・調整を行い、「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」、「健康なまち

定山溪『まちけん』への出張につながった。

7. 広報・催事の企画・運営の推進

- (1)「さっぽろデザインウィーク2014」、「みんなでみに区健康まつり2014」に参加し、学内外との連絡・調整を担うことで本事業の広報活動を行った。
- (2)本事業の取り組みを地域住民に周知することを目的に、広報チームで制作する「まちの学校新聞」(全8回制作)の掲載内容の情報収集、文章作成を行った。
- (3)札幌市が発行する広報誌「広報さっぽろ」南区版に、本学COC事業専用枠の設置に向けた交渉・調整を行い、平成27年度の1年間設置が実現した。
- (4)地域の小学生(桜山小学校)約110名の施設見学の受け入れを行い、COC事業やまちの学校について説明し、周知をした。
- (5)地域住民への本事業の周知を目的に、「COCフォーラム」(平成26年3月8日)、オープニングイベント「まちの学校にあつまれ!」(平成27年5月9日)、「みんなの発表会-地域と学生による活動成果の発表」(平成29年2月18日)、「札幌市立大学「まちの学校」のこれまでとこれから-地域志向型教育・研究拠点および交流の場を目指して-」(平成30年2月17日)の企画立案・検討、および広報チームや学内教員、地域住民との連絡・調整、場のデザインを行った。

8. 「まちの学校」開設準備と開設後の運営の推進

- (1)「まちの学校」開設に向けて、札幌市の関連部署や学内教職員との連絡・調整により、場のデザイン、什器の選定、整備を行った。
- (2)開設後の周知のために、プレオープニングイベント(平成27年3月21日)を開催した。
- (3)開設後は、札幌市やまこまる入居者、地域の関係者との連絡・調整や広報活動を行い、「まちの学校」を拠点とした事業の運営を推進するための役割を担った。

9. まこまる入居者との連携

- (1)「まこまる」入居者同士の連携を推進することを目的に、「まこまる運営協議会」、「まこまる事前打合せ」に毎月出席し、積極的な連携を図った。
- (2)まこまる入居者が連携して施設をPRするために、「まこ×まち2016」(平成28年2月27日)、「まこ×まち2016 Vol.2」(平成28年11月12日)、「きて!みて!まこまる2017」(平成29年10月14日)を開催し、本学の担当者として、イベントの企画・準備・運営、パンフレット制作、および学内との調整を行った。

- (3)平成27年度には、まこまるの情報誌「まこまる通信」(年3回)を制作した。
- (4)まこまる中央入口のサインを制作した。

10. 関連施設・大学の視察調査や視察受入

1) 関連施設視察調査

下記18施設への視察調査を行った。

札幌大学 suicc / ユニバーサルカフェ Minna / あけぼのアート&コミュニティセンター / こみゅにていさろん八重別 / 取手アートプロジェクト / アーツ千代田3331 / 芝の家 / 千葉大学コミュニティ再生ケアセンター / 柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) / 東京大学フューチャーセンター推進機構 / 横浜市立大学並木ラボ / 千葉大学サテライトキャンパス / 札幌市生涯学習センター「ちえりあ」ご近所先生 / Aalto University Design Factory (Espoo, Finland) / Aalto University Department of Real Estate, Planning and Geoinformatics (Espoo, Finland) / Future Center “The shipyard” (Breda, Netherlands) / Kvarterhuset (Copenhagen, Denmark) / The Mill (London, UK)

2) 関連イベントでの講演による情報発信

下記5つのイベントで講演を行った。

名古屋学院大学サイエンストーク / さっぽろ若者会議 / ケアとクリエイティブをかんがえる ケアクリ会議 / 平成26年度 地(知)の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業 / 全国ネットワーク化事業 平成27年度COC/COC+全国シンポジウム

3) 関連大学視察受け入れ、情報交換

下記10大学の視察を受け入れ、情報交換を行った。

横浜国立大学 / 宮崎大学 / 富山県立大学 / 大阪府立大学 / 宇都宮大学 / 小樽商科大学 / 島根県立大学 / 名古屋学院大学 / 兵庫県立大学 / 秋田公立美術大学

11. COC STUDENT PLAZAによる学生支援

- (1)地域貢献活動に興味のある学生を支援する目的で、COC STUDENT PLAZAという仕組みを企画し、特任教員が相談窓口となり、学生の地域貢献活動を支援した。平成26年度12名、平成27年度18名、平成28年度11名の登録があった。「まちの図書室・談話室」の整備、「まちの健康応援室」の支援、C o m i d r iでの遊びの支援、「まちの学校」でのイベント、「まこまる」プレーパークの遊具のデザインや、健康づくりサークル等の活動を行った。
- (2)平成29年度は、「みんなで楽しくふまねっと」の企



みんなで楽しくふまねっと

画・活動支援および、共催団体である「認定NPO法人ふまねっと札幌支部」との連携支援を行った。

12. COC事業終了後の方針の検討

「COC事業終了後検討ワーキング」のメンバーとして、COC事業終了後の方針について他の教職員とともに検討し、案を作成した。

III 総括

本学の教職員や学生、札幌市各課、各地域関係者などとの連絡・調整、および各チーム・班の企画・運営支援を行うことによる成果は以下の通りである。教育では、南区地域振興課や各まちづくりセンターの協力により、南区をフィールドとした授業の基盤づくりができた。研究では、ウェルネスサイエンス研究の推進に向けた研究成果の発信の場づくりと、自らCOC共同研究を活用した南区に関する研究課題に取り組んだ。社会貢献では、拠点となる「まちの学校」を開設し、多世代交流の機会創出やウェルネス支援を行い、様々な地域ネットワークが形成した。学生に対しては、COC STUDENT PLAZAの仕組みを運用することで学生の主体的な社会貢献活動の定着に寄与した。また、イベント開催や広報誌の制作によって先に挙げた活動を広く地域に発信することができた。以上より、本事業を円滑に推進させる役割を果たすことができたと考える。

IV 今後の課題

本事業期間中には実験的に様々な教育・研究・社会貢献活動に取り組んできたが、事業終了後も継続的に取り組むものにおいて、これまで特任教員が担ってきた役割をどのように補うかが課題である。現在、他の専任教員が担えるよう学内の推進体制を整えている。

平成25年～29年度 文部科学省

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

平成29年度成果報告

および平成25年～29年度(5年間)のあゆみ

発行日：平成30年3月31日

発行：札幌市立大学

編集：札幌市立大学COC広報企画推進チーム/COC事務局



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

●大学本部/デザイン学部/デザイン研究科

芸術の森キャンパス：〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

●看護学部/助産学専攻科/看護学研究科

桑園キャンパス：〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目

●SCUまちの学校

COCキャンパス：〒005-0014 札幌市南区真駒内幸町2丁目2-2まこまる内

【連絡先】

札幌市立大学 COC事務局(地域連携課内)

e-mail: coc-office@jimu.scu.ac.jp

Tel: 011-596-6675 Fax: 011-596-6676

<http://cocc.scu.ac.jp/>

*ウェルネス (Wellness) とは、
生涯にわたり、「健康で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」状態